

陸連時報 三

2014
平成26年 8 月号

題字は平沼亮三(初代陸連会長)の書

目 次

第17回アジア競技大会(2014/仁川)日本代表選手	198
第17回アジア競技大会(2014/仁川)トラック&フィールド・競歩日本代表選手メッセージ	200
強化関連情報(強化委員会)	205
第2回ユースオリンピック競技大会・アジア地域予選報告(強化委員会強化育成部副部長 前野一浩)	
第1回世界リレー選手権大会報告(理事・強化委員長 原田康弘)	
第16回アジアジュニア陸上競技選手権大会報告(強化副委員長・強化育成部長 山崎一彦)	
2014年度全国医務部長会議報告(理事・医事委員長 山澤文裕)	209
大会観戦ガイド	210
陸協NEWS	212
事務局からのお知らせ	214

公告

「陸連時報」は公益財団法人日本陸上競技連盟定款第4条第6号の「機関誌」の性格を有するものですが、毎月「陸上競技マガジン」と一体として発行しています。陸上競技に関する啓発記事のほか、必要に応じて、評議員会、理事会の決定事項、各専門委員会、事務局からの報告、通達も掲載いたします。本時報に掲載した通達は、公式に通達したものと取扱わせていただきますので、登録競技者は本時報の掲載内容にご注意下さい。また、陸上競技指導者の方は、所属競技者にお知らせ下さるようお願い致します。

公益財団法人日本陸上競技連盟

第17回アジア競技大会(2014/仁川) 日本代表選手

【男子】 31名 ※マラソンを含む

ブロック	名前	フリガナ	所属		派遣設定記録有効期間内ベスト記録		自己ベスト	過去出場年	生年月日	身長	体重	(注)	
短距離	桐生 祥秀	キリュウ・ヨシヒデ	埼玉	東洋大学	100m	10.01	A	10.01	初出場	1995/12/15	175	69	
	山縣 亮太	ヤマガタ・リョウタ	広島	慶應義塾大学	100m	10.11	B	10.07	初出場	1992/6/10	177	68	
	飯塚 翔太	イヅカ・ショウタ	静岡	ミズノ	200m	20.21	A	20.21	初出場	1991/6/25	185	81	
	原 翔太	ハラ・ショウタ	群馬	上武大学	200m	20.41	B	20.41	初出場	1992/7/18	180	75	
	金丸 祐三	カネマル・ユウゾウ	徳島	大塚製薬	400m	45.46	B	45.16	10/06	1987/9/18	177	77	
	高瀬 慧	タカセ・ケイ	千葉	富士通	200m	20.34	B	20.34	初出場	1988/11/25	179	64	※2
	藤光 謙司	フジミツ・ケンジ	神奈川	センリン	200m	20.48	B	20.38	10	1986/5/1	182	69	※2
	渡邊 和也	ワタナベ・カズヤ	宮城	チームミズノ アスレティック	400m	45.71		45.71	初出場	1988/7/20	170	61	※2
長距離	佐藤 悠基	サトウ・ユウキ	東京	日清食品 グループ	5000m	13:13.60	B	13:13.60	初出場	1986/11/26	179	60	
					10000m	27:39.50	B	27:38.25	初出場				
	大迫 傑	オオサコ・スグル	東京	日清食品 グループ	10000m	27:38.31	B	27:38.31	初出場	1991/5/23	170	53	
ハードル	篠藤 淳	シノトウ・ジュン	兵庫	山陽特殊製鋼	3000mSC	8:32.89		8:32.89	初出場	1985/4/2	172	54	※1
	増野 元太	マスノ・ゲンタ	北海道	国際武道大学	110mH	13.58		13.58	初出場	1993/5/24	182	76	※1
跳躍	岸本 鷹幸	キシモト・タカユキ	東京	富士通	400mH	49.08	B	48.41	初出場	1990/5/6	171	61	
	戸邊 直人	トベ・ナオト	千葉	千葉陸協	走高跳	2m31	A	2m31	初出場	1992/3/31	194	72	
	衛藤 昂	エトウ・タカシ	三重	筑波大学	走高跳	2m28	B	2m28	初出場	1991/2/5	183	69	
	山本 聖途	ヤマモト・セイト	愛知	トヨタ自動車	棒高跳	5m75	A	5m75	初出場	1992/3/11	180	70	
投擲	澤野 大地	サワノ・ダイチ	千葉	富士通	棒高跳	5m70	B	5m83	06	1980/9/16	183	74	
	新井 涼平	アライ・リョウヘイ	静岡	スズキ浜松AC	やり投	85m48	A	85m48	初出場	1991/6/23	183	92	
	村上 幸史	ムラカミ・ユキフミ	静岡	スズキ浜松AC	やり投	85m96	A	85m96	10/06/02	1979/12/23	186	100	
混成	右代 啓祐	ウシロ・ケイスケ	静岡	スズキ浜松AC	十種競技	8308	B	8308	10	1986/7/24	196	95	
	中村 明彦	ナカムラ・アキヒコ	静岡	スズキ浜松AC	十種競技	8035	B	8035	初出場	1990/10/23	181	72	

ブロック	名前	フリガナ	所属		選考競技会結果		自己ベスト	過去大会出場年	生年月日	身長	体重	(注)	
競歩	鈴木 雄介	スズキ・ユウスケ	千葉	富士通	20km競歩	1:18:17		1:18.17	10	1988/1/2	170	57	
	高橋 英輝	タカハシ・エイキ	岩手	岩手大学	20km競歩	1:18:41		1:18.41	初出場	1992/11/19	175	58	
	谷井 孝行	タニイ・タカユキ	埼玉	自衛隊体育学校	50km競歩	3:41:32		3:41.32	初出場	1983/2/14	167	57	
	山崎 勇喜	ヤマザキ・ユウキ	埼玉	自衛隊体育学校	50km競歩	3:44:23		3:40.12	06/02	1984/1/16	179	65	

ブロック	名前	フリガナ	所属		選考競技会結果		自己ベスト	過去大会出場年	生年月日	身長	体重	(注)	
マラソン	松村 康平	マツムラ・コウヘイ	長崎	三菱重工長崎		2:08:09		2:08.09	初出場	1986/11/25	176	59	
	川内 優輝	カノウチ・ユウキ	埼玉	埼玉県庁		2:09:05		2:08:14	初出場	1987/3/5	175	62	

■強化育成部推薦選手

ブロック	名前	フリガナ	所属		派遣設定記録有効期間内ベスト記録		自己ベスト	過去出場年	生年月日	身長	体重	(注)	
短距離	加藤 修也	カトウ・ノブヤ	静岡	早稲田大学	400m	45.69		45.69	初出場	1995/4/16	185	68	
中距離	川元 奨	カワモト・ショウ	長野	日本大学	800m	1:45.75		1:45.75	初出場	1993/3/1	175	68	
長距離	村山 紘太	ムラヤマ・コウタ	宮城	城西大学	5000m	13:38.87		13:38.87	初出場	1993/2/23	174	54	
跳躍	山本 凌雅	ヤマモト・リョウマ	長崎	順天堂大学	三段跳	16m10		16m10	初出場	1995/7/14	178	62	

※1 選考要項 3.選考基準(2)の③「本大会でメダル獲得を期待される競技者」としての選出

※2 選考要項 3.選考基準(3)の「リレー種目の代表選手」としての選出

注1 短距離はリレー要員も含む。注2 山崎勇喜は2010広州大会は選出されたが欠場。注3 派遣設定記録有効期間は2013年4月1日～2014年6月8日。

注4 マラソンの代表選手は発表済。注5 代表選手の正式決定は公益財団法人日本オリンピック委員会(JOC)により決定される。

【女子】23名 ※マラソンを含む

ブロック	名前	フリガナ	所属		派遣設定記録有効期間内ベスト記録		自己ベスト	過去大会出場年	生年月日	身長	体重	(注)	
短距離	福島 千里	フクシマ・チサト	北海道	北海道ハイテクAC	100m	11.38	11.21	10	1988/6/27	166	50	※1	
					200m	23.25	22.89	10					
	市川 華菜	イチカワ・カナ	愛知	ミズノ	200m	23.74	23.51	初出場	1991/1/14	164	51	※2	
	藤森 安奈	フジモリ・アンナ	東京	青山学院大学	100m	11.68	11.68	初出場	1994/11/10	161	52	※2	
千葉 麻美	チバ・アサミ	福島	東邦銀行	400m	53.76	51.75	10/06	1985/9/25	162	50	※2		
長距離	尾西 美咲	オニシ・ミサキ	千葉	積水化学	5000m	15:21.73	B	15:21.73	初出場	1985/2/24	164	46	
	松崎 璃子	マツザキ・リコ	千葉	積水化学	5000m	15:22.67	B	15:22.67	初出場	1992/12/24	157	43	
	西原 加純	ニシハラ・カスミ	群馬	ヤマダ電機	10000m	31:53.69	B	31:53.69	初出場	1989/3/1	162	47	
	萩原 歩美	ハギワラ・アユミ	東京	ユニクロ	10000m	31:45.29	B	31:45.29	初出場	1992/6/1	155	39	
	三郷実沙希	サンゴウ・ミサキ	静岡	スズキ浜松AC	3000mSC	9:49.85		9:49.85	初出場	1989/4/21	165	46	※1
	中村真悠子	ナカムラ・マユコ	茨城	筑波大学	3000mSC	9:53.87		9:53.87	初出場	1990/11/20	157	48	※1
ハードル	木村 文子	キムラ・アヤコ	広島	エディオン	100mH	13.03		13.03	初出場	1988/6/11	168	53	※1
	久保倉里美	クボクラ・サトミ	新潟	新潟アルビレックスRC	400mH	56.33		55.34	10/06	1982/4/27	161	52	※1
跳躍	福本 幸	フクモト・ミユキ	兵庫	甲南学園AC	走高跳	1m92	B	1m92	06	1977/1/4	172	53	
	我孫子智美	アビコ・トモミ	滋賀	滋賀レイクスターズ	棒高跳	4m30(室内)		4m40	10	1988/3/17	174	53	※1
投擲	綾 真澄	アヤ・マズミ	香川	丸善工業	ハンマー投	65m03		67m26	06/02	1980/1/1	165	75	※1
	海老原有希	エビハラ・ユキ	静岡	スズキ浜松AC	やり投	62m83	B	62m83	10/06	1985/10/28	164	68	

ブロック	名前	フリガナ	所属		選考競技会結果		自己ベスト	過去大会出場年	生年月日	身長	体重	(注)	
競歩	井上 麗	イノウエ・レイ	岡山	天満屋	20km競歩	1:31:48		1:31:48	初出場	1991/7/23	155	41	

ブロック	名前	フリガナ	所属		選考競技会結果		自己ベスト	過去大会出場年	生年月日	身長	体重	(注)	
マラソン	木崎 良子	キザキ・リョウコ	大阪	ダイハツ		2:25:26		2:23:34	10	1985/6/21	157	43	
	早川 英里	ハヤカワ・エリ	東京	TOTO		2:25:31		2:25:31	初出場	1981/11/15	153	42	

■強化育成部推薦選手

ブロック	名前	フリガナ	所属		派遣設定記録有効期間内ベスト記録		自己ベスト	過去大会出場年	生年月日	身長	体重	(注)
短距離	土井 杏南	ドイ・アンナ	埼玉	大東文化大学	100m	11.57	11.43	初出場	1995/8/24	158	50	
	松本奈菜子	マツモト・ナナコ	静岡	浜松市立高校	400m	53.67	53.67	初出場	1996/9/3	160	50	
	青山 聖佳	アオヤマ・セイカ	島根	松江商業高校	400m	53.40	53.40	初出場	1996/5/1	169	60	
ハードル	青木 益未	アオキ・マズミ	岡山	環太平洋大学	100mH	13.36	13.36	初出場	1994/4/16	166	58	

※1 選考要項 3.選考基準 (2) の③「本大会でメダル獲得を期待される競技者」としての選出

※2 選考要項 3.選考基準 (3) の「リレー種目の代表選手」としての選出

注1 短距離はリレー要員も含む。 注2 木崎良子は2010広州大会は5000mに出場。 注3 派遣設定記録有効期間は2013年4月1日～2014年6月8日。

注4 マラソンの代表選手は発表済。 注5 代表選手の正式決定は公益財団法人日本オリンピック委員会 (JOC) により決定される。

第17回アジア競技大会 (2014/仁川)

トラック&フィールド・競歩日本代表選手メッセージ

9月27日～10月3日まで韓国・仁川で開催される第17回アジア競技大会。トラック&フィールド・競歩の日本代表選手を紹介致します。

【男子】29名 (マラソンを除く)

短距離



桐生 祥秀 (キリュウ・ヨシヒデ) 東洋大学・埼玉
彦根市立南中学校 (滋賀) → 洛南高校 (京都)
指導者 中学校: 陸上部 植田 明彦
高校: 陸上部 柴田 博之

(大会に向けての抱負) 自分の最大の目標は世界のフィナリストに残り、そこで勝負することなので、今回のアジア大会はとてつもない経験になると思います。代表に選んでいただ

いたので100mで上をしっかり狙っていきます。

(種目の魅力) 100mと4×100mリレーに出場予定です。100mは9秒、10秒で終わるレースですが、その中に迫力があります。日本のリレーは伝統があるので、しっかり日本らしいレースをしたいと思います。応援のほどよろしくお願ひします。



山縣 亮太 (ヤマガタ・リョウタ) 慶徳義塾大学・広島
修道中学校 (広島) → 修道高校 (広島)
指導者 中学校: 陸上 松澤 慶久
高校: 陸上 松澤 慶久

(大会に向けての抱負) 今シーズンはこのアジア大会で結果を出すために練習に励んできました。ここまで、昨シーズン末より痛めている腰のことで多くの方々にご心配をおかけしていますが、先日の日本選手権では予想を上回る結果でアジア大会代表を勝ちとることができ、順調な仕上がりに感じています。今大会では優勝を目指して、精一杯頑張ります。

(種目の魅力) 100mは非常にシンプルな競技だと思われていますが、実は非常に複雑で繊細な競技です。ちょっとした油断や隙が、勝敗を大きく左右するために、レース前から非常に緊迫した空気になります。選手はその中でいかに自分のレースを実現するかが鍵となります。自らを奮い立たせ、同時に相手に自分を意識させるために独特のパフォーマンスをレース前に行う選手も多くいるのがこの種目の1つの特徴ではないでしょうか。ファンの皆様におかれましては、ぜひそういった100m選手のレース前の表情であるとか、独特のパフォーマンスに注目していただけたら、よりレースを楽しめるのではないのでしょうか。



飯塚 翔太 (イヅカ・ショウタ) ミズノ・静岡
御前崎市立浜岡中学校 (静岡) → 藤枝明誠高校 (静岡)
→ 中央大学

指導者 中学校: 陸上部 小野 芳彦・浦海 俊次
高校: 陸上部 清 尊徳・佐藤 常保
大学: 陸上部 小栗 忠・豊田 裕浩

(大会に向けての抱負) 個人種目の優勝。記録20秒28。初めてのアジア大会出場になります。オリンピック委員会主催のため、大会は様々なスポーツと一緒にいることがあるので刺激があってアピールしたい。陸上は期間中の最後のほうになるのでチーム日本の勢いを頂き、頑張りたい。

(種目の魅力) 200m。様々なタイプの選手がいて順位の入替えが多くなる種目。コーナーはスピード感があって面白い。走っていると短いようで長い、走っている時の記憶はほとんど残らない。記録が出るときは直線に入ってもほとんど疲れがないが、記録が出ないときは80m付近で足がきつくなります。



原 翔太 (ハラ・ショウタ) 上武大学・群馬
伊那市立伊那中学校 (長野) → 高遠高校 (長野)
指導者 中学校: 陸上部 徳永 吉彦
高校: 陸上部 上杉 丈夫・三代澤芳男

(大会に向けての抱負) 今年が初めての海外遠征、日本代表。より良い経験になるように、楽しめるように最高の状態で臨み、以前の自分を越える。後半だけでない、200mだけでなく、またあの場合だけでなく、改めて日本1位だと思わせる走りをする。

(種目の魅力) 200mは100mと違い駆け引きも多用な種目。100mを専門にしていたからすれば、課題や修正箇所は、わかりやすく見えた。コーナーから直線に出るときの気持ちよさは、味わった者にしかわからない。



金丸 祐三 (カナマル・ユウゾウ) 大塚製薬・徳島
高槻市立芝谷中学校 (大阪) → 大阪高校 (大阪) → 法政大学
指導者 中学校: 陸上競技部 竹口 恵子
高校: 陸上競技部 岡本 博
大学: 陸上競技部 菊部 俊二

(大会に向けての抱負) 自己ベスト更新。
(種目の魅力) スピードとスタミナのカタテ。



高瀬 慧 (タカセ・ケイ) 富士通・千葉
静岡市立長田南中学校 (静岡) → 静岡西高校 (静岡)
→ 順天堂大学
指導者 中学校: 陸上部 本間 先生
高校: 陸上部 石代 晃司
大学: 陸上部 佐久間和彦

(大会に向けての抱負) 37秒台を出し、金メダル獲得。

(種目の魅力) チームワークとバトンパスの技術。



藤光 謙司 (フジミツ・ケンジ) センリン・神奈川
さいたま市立三室中学校 (埼玉)
→ さいたま市立浦和高校 (埼玉) → 日本大学
指導者 中学校: 陸上部 降幡 厚博
高校: 陸上部 高澤 正夫
大学: 陸上競技部 安井 年文

(大会に向けての抱負) 前回大会では出場した種目すべてが銀メダルだったので、今大会は金メダルを持って帰りたい。来年に世界選手権が控えている中で、アジアでの戦いは非常に重要になってくるはずなので、しっかりと結果を残したい。

(種目の魅力) 4×400mリレーは400mの中で様々な駆け引きや勝負どころがあり、最後まで勝負の行方がわからない非常に楽しめる種目ですので、色々なところに注目して観て下さい。



渡邊 和也 (ワタナベ・カズヤ)
チームミズノアスレティック・宮城
柴田町立船岡中学校 (宮城) → 柴田高校 (宮城)
→ 東北福祉大学

指導者 中学校: 陸上部 鈴木 理子
高校: 陸上部 鈴木 貴博
大学: 陸上部 小崎 浩信

(大会に向けての抱負) 優勝あのみ!!

(種目の魅力) なんとと言っても陸上の花形種目! 4人でバトンを繋ぐ中に様々な駆け引きや激しい順位の入替わりなど、ドラマのある種目です。ラスト100mの選手の必死な姿に注目してください!

長距離



佐藤 悠基 (サトウ・ユウキ)
日清食品グループ・東京
清水町立南中学校 (静岡) → 佐久長聖高校 (長野)
→ 東海大学

指導者 中学校: 陸上部 朝倉 和也
高校: 駅伝部 両角 速
大学: 陸上部 新居 利広

(大会に向けての抱負) 自分の持っている力を出し切り、メダル獲得を目標に頑張ります。

〈種目の魅力〉長い競技ですが、ボジショニングや終盤にかけての駆け引き、スパート勝負に注目して見てほしいです。



大迫 傑 (オオサコ・スゲル) 日清食品グループ・東京
町田市立金井中学校(東京) → 佐久長聖高校(長野)
→ 早稲田大学
指導者 中学校: 陸上部 山口 智美
高 校: 駅伝部 両角 速
大 学: 競走部 渡辺 康幸
〈大会に向けての抱負〉メダル獲得に向け、精一杯頑張ります。

〈種目の魅力〉レースの中での駆け引きは見ている面白いのではないかと思ひます。



篠藤 淳 (シノトウ・ジュン) 山陽特殊製鋼・兵庫
神戸市立舞子中学校(兵庫) → 飾磨工業高校(兵庫)
→ 中央学院大学
指導者 中学校: 陸上部 勝呂 昌史
高 校: 陸上部 西岡 斉
大 学: 駅伝部 川崎 勇二
〈大会に向けての抱負〉初めての日のため、楽しんで走りたい。

〈種目の魅力〉水濼、障害を越える時の迫力が面白いと思ひます。

ハードル



増野 元太 (マズノ・ゲンタ) 国際武道大学・北海道
北斗市立上磯中学校(北海道)
→ 函館大学付属有斗高校(北海道)
指導者 中学校: 陸上競技部 齊藤 力
高 校: 陸上競技部 西川 康秀
〈大会に向けての抱負〉シニアの国際大会は初めてですが、精一杯、自分の力を出し切り、メダルが取れるよう頑張ります。
〈種目の魅力〉100mHは106.7cmという幼稚園児の平均身長くらいもある高さのハードルを全力で走り、跳び越えていく種目です。小さなミスが大きく勝負を左右するので、最後まで、ドキドキしながら見る事ができると思ひます。



岸本 廉幸 (キシモト・タクユキ) 富士通・東京
むつ市立大平中学校(青森) → 大湊高校(青森)
→ 法政大学
指導者 中学校: 陸上部 高森 洋平・伊藤 健二
高 校: 陸上部 館岡 清人・鈴木 俊博・平井 美史
大 学: 陸上競技部 菊部 俊二
〈大会に向けての抱負〉国外での実績はまだユニバーシアードしか残っていないので、今回は強気に優勝を目指して頑張ります。
〈種目の魅力〉迫力のある110mHとは違う、流れるような走り・ハードルにご注目!

跳躍



戸邊 直人 (トベ・ナオト) 千葉陸協・千葉
野田市立第二中学校(千葉) → 専修大学松戸高校(千葉)
→ 筑波大学
指導者 中学校: 陸上競技部 岡田 洋子
高 校: 陸上競技部 鶴沢 勇
大 学: 陸上競技部 岡子 浩二
〈大会に向けての抱負〉2m30台の後半の記録を跳び、メダル獲得を目指す。

〈種目の魅力〉自分の身体を使った踏切動作によって、高く跳ぶダイナミックさ。バーに向かう選手達の駆け引き。



衛藤 昂 (エトウ・タカシ) 筑波大学・三重
鈴鹿市立白子中学校(三重) → 鈴鹿工業高等専門学校(三重)
指導者 中学校: 陸上競技部 谷 映視・山口 秀人
高 校: 陸上競技部 船越 一彦
〈大会に向けての抱負〉当日2m30以上を跳ぶ。メダルを獲る。
〈種目の魅力〉「バーが残るか、落ちるか」結果が一目瞭然、シンプルな種目。競技会や陸上教室でとても盛り上がる。バーを越えたときの「背中に風が通る」感覚が爽快。それが自己ベストであると最高の気分である。



山本 聖途 (ヤマモト・セイト) トヨタ自動車・愛知
岡崎市立岩津中学校(愛知) → 岡崎城西高校(愛知)
→ 中央大学
指導者 中学校: 陸上部 市川 陽明
高 校: 陸上部 若杉 鋼洋
大 学: 陸上部 本田 陽

〈大会に向けての抱負〉自己ベストを更新し、金メダルを獲得すること。そのためには、昨年ケガをして練習が積めていない7、8、9月で走り込み、体力をつける必要があります。4年に一度しか開かれない大会ということで、このチャンスをしっかり自分のものにしたいと思ひます。
〈種目の魅力〉勢い良い走り、力強く踏み切って、ボールの反発をもらってバーを越えていくところ。
どの種目でもそうですが、強い選手がいて、その選手に勝つのが、僕は、棒高跳の一番面白いところなんです。



澤野 大地 (サワノ・ダイチ) 富士通・千葉
印西市立印西中学校(千葉) → 成田高校(千葉) → 日本大学
指導者 中学校: 陸上部 岩井 浩
高 校: 陸上部 越川 一紀
大 学: 陸上部 澤村 博
〈大会に向けての抱負〉2大会振りのアジア大会となるが、本番ではしっかりと自分の跳躍をし、自己ベストと優勝を目指して頑張りたい。

〈種目の魅力〉棒1本で身長は何倍もの高さを超え単純な技の素晴らしいと、体操競技のようなしなやかな空中動作が棒高跳の魅力であると思ひます。

投擲



新井 涼平 (ライノ・リョウヘイ) スズキ浜松 AC・静岡
長静町立長静中学校(埼玉) → 皆野高校(埼玉)
→ 国士館大学
指導者 中学校: 野球部
高 校: 陸上競技部 福島 壮彦
大 学: 陸上競技部 岡田 雅次
〈大会に向けての抱負〉失敗は絶対に出来ない試合なので、万全の状態での挑み、優勝を目指します!!
〈種目の魅力〉投げたやりがいがきれいに飛ぶほど記録が出るのでそこに注目してほしい!!



村上 幸史 (ムラカミ・ユキフミ) スズキ浜松 AC・静岡
上島町立生名中学校(愛媛) → 今治明德高校(愛媛)
→ 日本大学
指導者 中学校: 野球部 福島 先生
高 校: 陸上部 濱元 一馬
大 学: 陸上部 小山 裕三
〈大会に向けての抱負〉2大会連続の金メダルを狙います。
〈種目の魅力〉やりがいが素晴らしい放物線に注目してみてください。

混成



右代 啓祐 (ウシロ・ケイスケ) スズキ浜松 AC・静岡
江別市立大森東中学校(北海道) → 札幌第一高校(北海道)
→ 国士館大学
指導者 中学校: 陸上部 川村 龍彦
高 校: 陸上部 大町 和敏
大 学: 陸上部 岡田 雅次
〈大会に向けての抱負〉アジアチャンピオンになって自分が世界と対等に戦える事を証明したい。

〈種目の魅力〉196cmの身体で走、跳、投、何でもできる身体能力の高さに注目していただきたいです。皆さんに夢や希望、感動を伝えられるようなパフォーマンスをしたいと思ひています。応援よろしくお願いします。



中村 明彦 (ナカムラ・アキヒコ) スズキ浜松 AC・静岡
岡崎市立六ツ美北中学校(愛知) → 岡崎城西高校(愛知)
→ 中央大学
指導者 中学校: 陸上部 山本 先生
高 校: 陸上部 若杉 鋼洋
大 学: 陸上部 本田 陽
〈大会に向けての抱負〉もう一度、8000点オーバー。右代さんと2人で表彰台に乗る。

《種目の魅力》一人で10種目、走、跳、投、する姿。1500mのゴールまで何が起るかわからないところ。右代さんと少し違うタイプですが、選手一人ひとりの得手、不得手にも注目して見ると面白いです。

競歩



鈴木 雄介 (スズキ・ユウスケ) 富士通・千葉
能美市立辰口中学校(石川)→小松高校(石川)
→順天堂大学

指導者 中学校：陸上部 内田 隆幸
高校：陸上部 内田 隆幸
大学：陸上部 今村 文男

《大会に向けての抱負》1番のライバルとなるのは中国の選手になると思いますが、ここ数年は他のアジア各国の選手のレベルも高くなっています。そんな状況で勝つことができれば来年の世界陸上、そして再来年のオリンピックにも弾みがつくと思います。この大会だけでなく、先を見据えた戦いをしたいと思います。《種目の魅力》なんとと言っても躍動感のある動きが魅力です。地に足を着けたままスピードを出さなければならぬため、走ることは表現できない迫力があります。またレース展開も、スピードを上げたり下げたりする緩急が激しいので、大きな変化が起ることが多く見られます。誰が勝つか予測しづらいので、終盤までハラハラできると思います。



高橋 英輝 (タカハシ・エイキ) 岩手大学・岩手
花巻市立宮野田中学校(岩手)→花巻北高校(岩手)
指導者 中学校：ソフトテニス部(特設陸上部) 小原 健一
高校：陸上競技部 塚田美和子
《大会に向けての抱負》金メダル獲得が目標です。自分らしい攻めのレースを貫き、支えて下さる方々への感謝の思いを歩きで示せるようがんばります。

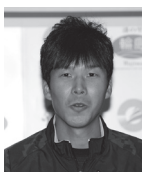
《種目の魅力》歩型に制限があるので、スピードだけでなく美しいかっこいいフォームを追求することができるのが競歩という競技の魅力の一つです。自分の理想のフォームで歩くことは簡単ではありませんが、動きのコツを掴むことで、一気にタイムを縮められることも多く、すごくやりがいのある種目です！



谷井 孝行 (タニイ・タクユキ) 自衛隊体育学校・埼玉
滑川市立滑川中学校(富山)→高岡向陵高校(富山)
→日本大学
指導者 中学校：陸上部 野口 貴史
高校：陸上部 北山 豊
大学：陸上部 小坂 忠広

《大会に向けての抱負》目標は金メダルです。日本選手権50km競歩大会でマークした自己記録をそのまま国際大会でも表現できるよう力をつけてスタートラインに立ちたいです。

《種目の魅力》50km競歩は約4時間の長丁場のレースとなります。それだけに順位の変動を多く、また競歩には歩型による失格もあるだけに最後の最後までどうなるかわかりません。50km競歩特有の駆け引きと最後まであきらめない姿をみてみてください。



山崎 勇喜 (ヤマザキ・ユウキ) 自衛隊体育学校・埼玉
富山市立杉原中学校(富山)→富山商業高校(富山)
→順天堂大学
指導者 中学校：サッカー部 殿村 哲夫
高校：陸上部 山本 正樹
大学：陸上部 小坂 忠広
《大会に向けての抱負》金メダルを獲得する事が目標です。

世界陸上やりオデジャネイロ・オリンピックにつながるレースをしてきます。
《種目の魅力》50km競歩はとても長い時間競争します。その長い時間、色んな駆け引きがあります。ペースの上げ下げがあったり、前を歩く選手が落ちてくる事を計算して後ろから攻めていったりと、特に最後の先頭争いのつばぜり合いは見応えがあります。

■強化育成部推薦選手

短距離



加藤 修也 (カトウ・ノブヤ) 早稲田大学・静岡
磐田市立豊岡中学校(静岡)→浜名高校(静岡)
指導者 中学校：サッカー部 鈴木 秀幸
高校：陸上競技部 高橋 和裕・小齊 健太
《大会に向けての抱負》日本代表に選んでいただいたことに感謝と責任を感じています。また、U23枠として選出されていたので、若手らしく全力で海外とぶつかり、多大な経験

を積んでいきたいと考えています。頑張りますので応援のほど宜しくお願い致します。
《種目の魅力》400mは効率よくスピードを出すことが求められていると私は考えています。また、レースはとて過酷です。そのためレースには、自分の考えがどれだけ体現できたかとどれだけ耐えられる練習を積んだかが現れます。私はそこが魅力だと考えています。

中距離



川元 奨 (カワモト・ショウ) 日本大学・長野
佐久市立野沢中学校(長野)→北佐久農業高校(長野)
指導者 中学校：陸上部 佐藤 孝子
高校：陸上部 後小路 正人

《大会に向けての抱負》今回のアジア大会は、また日本記録を更新するチャンスなので記録に挑戦しながら優勝を目指します。そして来年の世界陸上、再来年のオリンピックへのステップにしたいと思います。

《種目の魅力》トラックの格闘技ともいわれる800mは前半から積極的に走る選手や、後方で待機する選手などレースの中での駆け引きが魅力です。また観客を魅了する必死のラストスパートにも注目してください！！

長距離



村山 紘太 (ムラヤマ・コウタ) 城西大学・宮城
仙台市立八軒中学校(宮城)→明成高校(宮城)
指導者 中学校：陸上部
高校：陸上競技部 中村 登

《大会に向けての抱負》自分の力を出し切ることができれば結果も付いてくると思うので、それだけを考えています。メダルを獲ること！

《種目の魅力》5000mは10000mの半分距離ではあるが、とてもスピード感があり、またレース中の戦略等があり、とても見応えのあるレースになると思います。

跳躍



山本 凌輝 (ヤマモト・リョウマ) 順天堂大学・長崎
諫早市立高来中学校(長崎)→諫早農業高校(長崎)
指導者 中学校：陸上競技部 鳥巢 晋
高校：陸上競技部 木戸 祐一郎

《大会に向けての抱負》三段跳で入賞することは簡単なことではないと思いますが、挑戦する気持ち・強い気持ちをもって戦います。日本代表に選んで頂いたことへの感謝を忘れずに、ジュニア記録の16m29以上の自己ベストを狙っていきます。

《種目の魅力》三歩と限られた中で、どれだけ速くに跳べるかを魅力に感じながら観戦してもらいたい。また、最近では三段跳の世界大会入賞者がでていない。そのために私たちは、中学生・高校生の目標となる存在でありたい。

【女子】21名(マラソンを除く)

短距離



福島 千里 (フクシマ・チサト) 北海道ハイテクAC・北海道
幕別町立糖内中学校(北海道)→帯広南商業高校(北海道)
指導者 高校：陸上部 辻 吉則

《大会に向けての抱負》目標は金メダルです。アジア大会に向けてしっかり準備をして、万全の状態でもかえることが出来るように、しっかり練習したいと思います。

《種目の魅力》息をのむようなドキドキ感と、一瞬で勝負がついてしまうハラハラ感です。楽しみながら見て下さい。



市川 華菜 (イチカワ・カナ) ミズノ・愛知
豊田市立豊南中学校(愛知)→岡崎城西高校(愛知)
→中京大学

指導者 中学校：陸上部 若月先生・矢野先生
高校：陸上部 宇野先生・若杉先生
大学：陸上部 青戸 慎司

《大会に向けての抱負》今回、初めてのアジア大会で4×100mリレーと4×400mリレーの2種目リレーに出場します。世界で戦うにはまずアジアで勝つことが次に繋がる大きな1歩になると思います。しっかりアジアの舞台でリレーメンバー一人ひとりが力を出しきり結果を残せるように頑張ります！！

《種目の魅力》私は、4×100mリレーと4×400mリレーに出場します。4×100mリレーでは、一人ひとりの走りや練習してきたバトンパスをぜひ見ていただきたいです。

4×400mリレーでは、最後まで何が起こるか分からないドキドキ感をもって応援していただきたいです。良いレースができるように頑張ります。



藤森 安奈 (フジモリ・アンナ) 青山学院大学・東京
横須賀市立武山中学校 (神奈川) →東京高校 (東京)
指導者 中学校:陸上競技部 本多 真弓・荒井 峻
高校:陸上競技部 大村 邦英
〈大会に向けての抱負〉リレーで優勝することが目標です。アジア大会まで、しっかり準備して、自分の精一杯を出し切れるように頑張ります。これまで、アジア選手権など経験させて頂いているので、しっかり生かしたいです。

〈種目の魅力〉リレーは、個人種目と違って、4人でバトンを繋ぐので、日本の「一体感」を感じて頂きたいと思います。個人の持ちタイム以上の結果が出るので、走りだけでなく敵わない相手にもリレーだと勝てる可能性があります。そして、個人的にはリレーで勝つと、個人種目で勝つよりも4倍の感動や喜びがあると思います。



千葉 麻実 (チバ・アサミ) 東邦銀行・福島
矢吹町立矢吹中学校 (福島) →郡山東高校 (福島)
→福島大学

指導者 中学校:陸上部 古川 京子
高校:陸上部 菅原 澄子
大学:陸上部 川本 和久

〈大会に向けての抱負〉前回のマイルリレーでは銅メダルでしたが、今回は前回よりも少しでも上のメダルを日本に持って帰る様に頑張りたいと思います。そのためにも、本番で自分の走りをしっかりできるようにトレーニングしていきたいです。

〈種目の魅力〉マイルリレーは1人400mを走るため、レースの展開が変わってきます。選手によってレースのペース配分が違ってくるため、選手それぞれの走りに注目してほしいと思います。また、バトンパスの部分でもレースの流れを大きく左右するので、流れをくずさないバトンパスが必要となります。

長距離



尾西 美咲 (オニシ・ミサキ) 積水化学・千葉
伊勢市立小俣中学校 (三重) →宇治山田商業高校 (三重)
指導者 中学校:陸上部 福井 清
高校:陸上部 山本 顕

〈大会に向けての抱負〉しっかり勝負のできるレースをしたいです。

〈種目の魅力〉駆け引きやラスト勝負など、先の読めないおもしろさが魅力かなと思います。



松崎 璃子 (マツザキ・リコ) 積水化学・千葉
船橋市立古和釜中学校 (千葉) →市立船橋高校 (千葉)
指導者 高校:陸上部 佐藤 武良
〈大会に向けての抱負〉最近出来ていない思い切りの良いレースをしたい。目標は全力で楽しむこと！

〈種目の魅力〉長いようで短い距離なので気を抜けばすぐ順位が変わってしまうけど、逆を言えば一瞬で逆転も可能な、体力だけでなく頭も使う種目です。心・技・体、全てがその時にそろわなければならぬ種目です。



西原 加純 (ニシハラ・カスミ) ヤマダ電機・群馬
与謝野町立加悦中学校 (京都) →宮津高校 (京都)
→佛教大学

指導者 中学校:陸上部 森下 寿子
高校:陸上部 北野 剛教
大学:陸上部 森川 賢一

〈大会に向けての抱負〉久しぶりの日本代表になりますが、緊張も応援も力に変えて、ベスト更新、上位入賞を目標に、積極的なレースをし、来年の世界選手権、再来年のオリンピックに繋がるような大会にしたいです。

〈種目の魅力〉10000mは長い距離なので後半に急な展開があるなどペース変動のあるレースです。また、前半出遅れた場合でも後半追いつけることが十分可能で、最後まで目が離せないレースです。ぜひ最初から最後まで、応援よろしくお願いします。



萩原 歩美 (ハギワラ・アユミ) ユニクロ・東京
静岡市立南中学校 (静岡) →常葉学園菊川高校 (静岡)
指導者 中学校:陸上部 岩本 稜見
高校:陸上部 八木本雅之
〈大会に向けての抱負〉日本の代表としてメダルをとれるように頑張りたいと思います！！

〈種目の魅力〉トラックの最長距離走ということで、いろいろなドラマがあるのが魅力です！



三郷実沙希 (サンゴウ・ミサキ) スズキ浜松AC・静岡
森町立泉陽中学校 (静岡) →常葉学園菊川高校 (静岡)
指導者 中学校:陸上部
高校:陸上部 八木本雅之

〈大会に向けての抱負〉まだまだ障害の技術面は改善できる部分がたくさんあるので、少しでも改善して、アジア大会ではメダルを狙って積極的にレースをしたいです。

〈種目の魅力〉3000mSCは中・長距離の走力と障害を越える技術が必要な競技です。女子3000mSCは、他種目と比べ試合数も少ないので、この機会に見ていただいて、興味を持っていただけると嬉しいです。



中村真悠子 (ナカムラ・マユコ) 筑波大学・茨城
磐田市立磐田南中学校 (静岡) →磐田北高校 (静岡)
→京都教育大学

指導者 中学校:陸上競技部 中村 悟史
高校:陸上競技部 榎本 好孝
大学:陸上競技部 榎本 靖士・谷口 博

〈大会に向けての抱負〉家族、コーチ、チームメイト、応援してくださるすべての方々にワクワクしてもらえるような走りをしたいと思います。そして、日本の女子3000m障害物をより盛り上げていけるように積極的なレースをしたいです。応援よろしくお願いします！！

〈種目の魅力〉3000mを走る中でハードルを28回、水濠を7回超える過酷な種目です。走力とともにハードル技術も勝負のカギとなります。スピードが武器の選手、持久力が武器の選手、それぞれの持ち味を活かし最後までレースに変化がある楽しい種目です。

ハードル



木村 文子 (キムラ・アヤコ) エディオン・広島
広島市立可部中学校 (広島) →福徳北高校 (広島)
→横浜国立大学

指導者 中学校:陸上部
高校:陸上部 松崎 親男
大学:陸上部 伊藤 信之

〈大会に向けての抱負〉アジアのトップに立てるように、精一杯頑張りたいと思います。

〈種目の魅力〉10台のハードルがないかと思うくらいのスピード感でゴールまでかけ抜ける走りを見て下さい！！



久保倉里美 (クボクラ・サトミ)
新潟アルビレックスRC・新潟
旭川市立緑が丘中学校 (北海道) →旭川北高校 (北海道)
→福島大学

指導者 中学校:バスケット部
高校:陸上部 前田 文男
大学:陸上部 川本 和久

〈大会に向けての抱負〉アジア大会は3度目の出場になりますが、過去2大会はいずれもケガのため万全なコンディションでスタートラインにつくことができなかったのが今回こそは準備をしっかりと、金メダルを狙いたいと思います。

〈種目の魅力〉400mHはそれぞれ選手の特徴が表れる種目だと思います。前半が得意だったり、後半に強かったりと最後まで勝負は分からないので、それも魅力の1つだと思います。

跳躍



福本 幸 (フクモト・ユキ) 甲南学園AC・兵庫
 大阪市立淀中学校 (大阪) → 夙川学院高校 (兵庫)
 → 甲南大学
 指導者 中学校: 陸上水泳部 高橋 敦司
 高校: 陸上部 宮崎 好幸
 大学: 陸上競技部 桜井 治・野中 悟

〈大会に向けての抱負〉 走高跳を続ける限り1cmでも高く跳べるように取り組んでいます。今までの経験から、アジア大会が開催される10月にピーキングがくるように現在準備を進めています。目標は甲南大学で陸上競技部の顧問をして下さっている伊東浩司先生のようにアジアの頂点を目指します。
〈種目の魅力〉 走高跳は誰よりも高いバーを落とさずにクリアする競技です。バーよりもとても身体は浮いていても抜き足を引っ掛けたり、身体の一部が触れると記録にはなりません。バーに対して身体の高さはぎりぎりしか浮いてなくても、バーが残るクリアランスは高跳選手の技術の高さが光ります。踏み切り動作の前の様々な技術の成果が空中動作に出ますので、そんな目で高跳びを観戦して頂ければ一味違う面白さが味わえると思います。私も浮いているのに抜けない跳躍にならないようぎりぎりでもバーが残るような技術を出したいです。



我孫子智美 (アビコ・トモミ) 滋賀レイクスターズ・滋賀
 光泉中学校 (滋賀) → 光泉高校 (滋賀) → 同志社大学
 指導者 中学校: 陸上部 松井 夏絵
 高校: 陸上部 田尻 隆伸
 大学: 陸上部 田尻 隆伸

〈大会に向けての抱負〉 前回大会では4m15で3位だったので、それ以上の結果を出したいです。自分史上最高のパフォーマンスができるよう、しっかり準備をしたいです。
〈種目の魅力〉 他の種目にはなかなかないダイナミックなところや、自分とボールがうまく一体できた時の空中のふわっと跳んでいく気持ち良さが、棒高跳の魅力だと思います。

投擲



綾 真澄 (アヤ・マサミ) 丸善工業・香川
 坂出市立白峰中学校 (香川) → 飯山高校 (香川)
 → 中京大学
 指導者 中学校: 卓球部
 高校: 陸上部
 大学: 陸上部

〈大会に向けての抱負〉 自己記録更新、メダル獲得を目標にしっかりと準備していきたいです。
〈種目の魅力〉 フォームの正確性とタイミング、遠心力にたえる体力が大事で、自分が努力した分、記録にあられる事が魅力です。



海老原有希 (エビハラ・ユキ) スズキ浜松AC・静岡
 上三川町立上三川中学校 (栃木) → 真岡女子高校 (栃木)
 → 国士舘大学
 指導者 中学校: バスケットボール部 増渕 忍
 高校: 陸上競技部 渡辺 方夫
 大学: 陸上競技部 岡田 雅次

〈大会に向けての抱負〉 アジア大会では優勝することが最大の目標です。自分らしい投で、日本のやり投をアピールしてきました。
〈種目の魅力〉 やりが飛んでいく姿はとてモキレだと思います。選手が助走をしてきて、力いっぱい投げたやりの飛び方に注目して下さい。

競歩



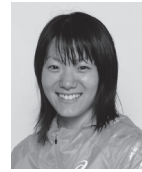
井上 麗 (イノウエ・レイ) 天満屋・岡山
 宝塚市立宝塚中学校 (兵庫) → 市立尼崎高校 (兵庫)
 指導者 中学校: ソフトテニス部 春名 先生
 高校: 陸上部 高橋 秀興

〈大会に向けての抱負〉 アジア大会は初めてですが、選ばれて出場するからには結果にこだわって、メダルを狙っていきなりたいです。自己記録の更新が出来れば1番いいと思いますが、自分の持っている力をすべて出し切れるように頑張ります。
〈種目の魅力〉 皆さんが思っているよりも意外と速いスピードで歩くのでびっくりすると思いますが、競歩は2つのルールがあり、それに違反すると注意や警告が出されトップで歩いても失格になることがあります。最後まで順位が分からないところも

魅力の1つです。

強化育成部推薦選手

短距離



土井 杏南 (ドイ・アナ) 大東文化大学・埼玉
 朝霞市立朝霞第一中学校 (埼玉) → 埼玉栄高校 (埼玉)
 指導者 中学校: 陸上部 井上 恵子
 高校: 陸上部 清田 浩伸

〈大会に向けての抱負〉 アジアの舞台でしっかりと全力を尽くし、ベストなパフォーマンスを出せるように頑張ります。また、日本代表として結果を残せるように最高の走りをした

したいと思います。
〈種目の魅力〉 短距離は陸上競技の中で最も短い距離で、その一瞬の中にその人の最大の力がこもっているということです。スタートからゴールまで全速力で走るのも一瞬も目が離せない競技だと思います。



松本奈菜子 (マツモト・ナナコ) 浜松市立高校・静岡
 静岡市立清水第四中学校 (静岡)

〈大会に向けての抱負〉 このような試合に出させていただくこととても光栄に思います。私が出場できるのもたくさんの方々に支えられているからこそです。感謝の気持ちをもって走りたいです。また、いつもと違う場や空気ですが、自分の走りができるようにしたいです。日本に貢献できるように頑張ります。

〈種目の魅力〉 私は800mもやっているのですが、800mと比べるとスピードに乗って気持ちよく走れるところがいいと思います。400m1周をどのように走るかを考え目標が達成した時、自分の思うように走れた時の達成感は好きです。



青山 聖佳 (アオヤマ・セイカ) 松江商業高校・島根
 松江市立第一中学校 (島根)

指導者 中学校: 陸上部 安達 直幸
〈大会に向けての抱負〉 シニアを含めた国際大会は初めての出場ですが、中でも自分の走りをしっかりと1本でも多く走れるように頑張りたいです。
〈種目の魅力〉 短距離では一番長い種目です。長い分、最後まで何が起るかかわからないため、見るほうもハラハラドキドキすると思います。

ハードル



青木 益未 (アオキ・マサミ) 環太平洋大学・岡山
 岡山市立福田中学校 (岡山) → 創志学園高校 (岡山)
 指導者 中学校: 陸上競技部 香川 幸丸
 高校: 陸上競技部 川崎 真二

〈大会に向けての抱負〉 今回、初めてシニアでの日本代表に選ばれ、私自身、今年目標にしていた大会の一つなので本当に嬉しいです。今回は100mHに出場します。自己記録更新はもちろん、13秒1台を目標にし、次のラウンドへ進めるように頑張ります。
〈種目の魅力〉 ハードルを始めてまだ2年、ハードルの奥の深さや楽しさにどんどん魅了されています。ハードルの間を3歩のリズムで軽快に刻み、どんどん加速していくところが走っていて本当に楽しいです。

大会ウェブサイト

<http://www.incheon2014ag.org/en>

強化関連情報

強化委員会

第2回ユースオリンピック競技大会・アジア地域予選報告

強化委員会強化育成部副部長 前野 一浩

日本選手団役員（9名）

監督	前野 一浩	日本陸連強化委員会 強化育成部 副部長
コーチ（短距離・ハードル）	杉井 将彦	日本陸連強化委員会 強化育成部 短距離・ハードル主任
コーチ（投擲）	知念 信勝	日本陸連強化委員会 強化育成部 委員
コーチ（跳躍）	田中 光	日本陸連強化委員会 強化育成部 委員
コーチ（跳躍）	渡邊 容史	日本陸連強化委員会 強化育成部 委員
コーチ（中・長距離）	岩本 真弥	日本陸連強化委員会 強化育成部 委員
コーチ（競歩）	塚田美和子	日本陸連強化委員会 強化育成部 委員
トレーナー	松尾信之介	日本陸連医事委員会 トレーナー部 委員
渉外	山田真理子	日本陸連 事務局事業部

はじめに

第2回ユースオリンピック競技大会・アジア地域予選がタイ・バンコクで5月21～22日に開催された。日本選手団は男子9名・女子10名・役員9名の28名で臨んだ。

現地入りする前からタイ情勢が不安定であるとともに、天候は暑さが厳しく、食事、水分に気をつけるなど渡航前に心配が予想された。また、トレーナーからは、ドーピング検査と水分補給、事前の薬使用、現地での薬使用について注意するよう指導があった。

一番驚いたことと心配だったことは、大会前日早朝、タイ全土に戒厳令発令と大会最終日夕方、クーデター勃発のニュースが入ったことだった。スタッフは情報収集をするともに、選手には不安のない環境を作り、ベストコンディションで大会に臨めるよう細かいミーティングを行った。

大会を振り返って

今大会の日本選手団の成績は、金メダル6個、銀メダル4個、銅メダル4個、19人19種目でメダルを含め18種目の入賞であった。

記録を見ると、男子100m優勝の大嶋健太選手（東京高校）と200m優勝の山下潤選手（福島高校）を中心とした短距離陣に好記録が出た。200mの山下選手と犬塚渉選手（浜名高校）は自己新記録を出した。中長距離においては、女子800mの高橋ひな選手（西脇工業高校）が前半から積極的なレースで先頭を引っ張り優勝。男女のハードル種目は、ユース規格のハードルのため普段練習して

いる高さよりも低いハードルであった。そのため、インターバル（ハードル間の距離）が、つまりすぎたり、リズムを崩すなど心配はあったが、高いパフォーマンスを持つ二人は、自分のリズムを壊すことなく無難に決勝進出。決勝で、金井直選手（川崎市立橋高校）は、胸一つの差で優勝。藤森菜那選手（浜松市立高校）は、日本ユース最高記録で、みごと金メダルに輝いた。男女のハードルタイムは、世界でも戦えるすばらしい記録であった。二人の高いパフォーマンスは、毎日のハードル基本動作を丁寧に繰り返し行っているたまものと言える。走高跳の平松祐司選手（西城陽高校）は、勝負強いところを見せた。集中力を切らすことなく、助走から踏み切りまで、いつもと同じ跳躍で、ただ一人2m12を跳んで自己新記録で優勝した。棒高跳は、課題を残す結果になった。すばらしい跳躍を展開していたが、メジャーがメートルのものではなく足が合わずに苦労していた。投擲種目は、自己新記録を出すものの中国選手の記録には届かなかった。体格的にハンディがあるように思えた。男女の競歩は、朝7時決勝という早い時間でのスタートであった。朝から直射日光がきつく暑い中のレースであった。小野川稔選手（東京実業高校）、松本紗依選手（奈良育英高校）ともに前半から先頭集団を形成し、終盤までがまんし、良い展開でレースが進行していた。ラストで離されはしたものの、二人とも銀メダルに輝いた。

最後に

今大会では、戒厳令・クーデターなど政治とスポーツが密接に関連していることと、小学校時代より言われ続けられている「遠足は家に帰るまで遠足です」という言葉を思い出した大会であった。「家に帰るまでが大会」で、待ってしてくれる家族や友人、仲間と場所があるから大会に出られると思った。帰る場所があるということが、とても幸せなことに気づかせてくれた。

海外にいと、日本での何の愛憎もない毎日がとても大事なのだと教わったように思った。

家族・友人・仲間・顧問の先生に感謝です。

感謝

今回同行していただいた日本陸連事務局をはじめ、選手のパフォーマンスを100%引き出そうと考えてくださったスタッフの先生方に感謝するとともに、厳しい環境の中で精一杯頑張ってくれた選手たちが、今後大きく成長することを祈念します。2020年の東京オリンピックに向けて一歩踏み出した大会であった。

第2回ユースオリンピック競技大会・アジア地域予選 リザルト

男子	種目	氏名	所属	自己ベスト	予選	決勝	備考
1	100m	大嶋 健太	東京高校	10.48	10.61 (1/h3) +0.7m/s Q	10.56 (1) -0.2m/s 優勝	
2	200m	山下 潤	福島高校	21.49	21.86 (1/h2) -1.3m/s Q	21.23 (1) 0.2m/s優勝	PB
3	200m	犬塚 渉	浜名高校	21.60	21.49 (2/h1) +0.2m/s Q	21.46 (3) 0.2m/s 入賞	PB
4	110mH	金井 直	川崎市立橋高校	14.59	13.83 (2/h1) +0.1m/s Q	13.77 (1) -0.1m/s優勝	
5	3000m	新迫 志希	世羅高校	8:16.42		8:41.06 (4) 入賞	
6	10000mW	小野川 稔	東京実業高校	21:06.14 (5000mW)		46:08.83 (2) 入賞	
7	走高跳	平松 祐司	西城陽高校	2m11		2.12 (1) 優勝	PB
8	棒高跳	上原 響	市立前橋高校	5m00		4.85 (3) 入賞	
9	円盤投	安藤 夢	東京高校	53m50		59.48 (3) 入賞	

女子	種目	氏名	所属	自己ベスト	予選	決勝	備考
1	200m	掛川 栞	安城学園高校	24.84	25.46 (3/h1) -1.5m/s Q	25.26 (5) 0.6m/s入賞	
2	200m	川村 知巳	盛岡第一高校	24.29	25.47 (2/h2) -1.6m/s Q	25.12 (4) 0.6m/s入賞	
3	100mH	藤森 菜那	浜松市立高校	13.83	13.80 (1/h1) +0.0m/s Q	13.59 (1) -0.2m/s優勝	PB
4	800m	高橋 ひな	西脇工業高校	2:07.19		2:09.28 (1) 優勝	
5	1500m	倉岡 奈々	鹿児島女子高校	4:16.20		4:22.01 (2) 入賞	
6	3000m	高松望ムセンビ	薫英女学院高校	9:08.22		10:15.52 (3) 入賞	
7	5000mW	松本 紗依	奈良育英高校	23:03		24:13.13 (2) 入賞	
8	三段跳	剣持クリア	山梨学院大学附属高校	12m16		12.26 (9) -0.2m	
9	棒高跳	諸田 実咲	太田女子高校	3m81		3.50 (3) 入賞	
10	やり投	森 風紗	名城大学附属高校	49m03		47.85 (4) 入賞	

第1回世界リレー選手権大会報告

理事・強化委員長 原田 康弘

日本選手団
役員（13名）

役職	氏名	陸連役職
団長	尾懸 貢	専務理事
監督	原田 康弘	理事・強化委員長
コーチ（男子）	伊東 浩司	男子短距離部長
コーチ（男子）	土江 寛裕	男子短距離副部長
コーチ（男子）	小坂田 淳	男子短距離部委員
コーチ（男子）	小島 茂之	男子短距離部幹事
コーチ（女子）	瀧谷 賢司	女子短距離部長
コーチ（女子）	太田 涼	女子短距離部幹事
ドクター	桜庭 景植	医事委員会委員
トレーナー	村上 博之	医事委員会トレーナー部委員
トレーナー	田村佑実保	医事委員会トレーナー部委員
栄養士	長坂 聡子	日本スポーツ振興センター マルチサポート事業
渉外	大嶋 康弘	事務局事業部

選手（男子12名、女子5名）

男子種目	氏名	登録陸協	所属
4×100mリレー	高瀬 慧	千葉	富士通
4×100mリレー	飯塚 翔太	静岡	ミズノ
4×100mリレー	大瀬戸一馬	福岡	法政大学
4×100mリレー	桐生 祥秀	埼玉	東洋大学
4×200mリレー	江里口匡史	大阪	大阪ガス
4×100mリレー	小林 雄一	三重	NTN
4×200mリレー	藤光 謙司	神奈川	ゼンリン
4×100mリレー	高平 慎士	千葉	富士通
4×200mリレー	金丸 祐三	徳島	大塚製薬
4×100mリレー	石塚 祐輔	茨城	ミズノ
4×400mリレー	渡邊 和也	宮城	チームミズノアスレティック
4×400mリレー	油井 快晴	静岡	順天堂大学
女子種目	氏名	登録陸協	所属
4×100mリレー	渡辺 真弓	福島	東邦銀行
4×100mリレー	土井 杏南	埼玉	大東文化大学
4×100mリレー	北風 沙織	北海道	北海道ハイテクAC
4×100mリレー	市川 華菜	愛知	ミズノ
4×100mリレー	藤森 安奈	東京	青山学院大学

はじめに

第1回世界リレー選手権大会が、5月24日～25日、パハマのナッソーで行われた。日本チームは、アメリカ・フロリダのIMGアカデミーで3日間の時差調整を兼ねた調整合宿を行い、大会の2日前にナッソーに入り、順調に調整ができた。今回の世界リレーには世界48ヶ国から参加し、レベルの高いレースが繰り広げられた。日本チームは男子4×100mリレー、4×200mリレー、4×400mリレー、女子4×100mリレーの4種目のリレーに出場した。初めてのリレーだけの大会で、世界の各国がどのような選手構成をして臨んでくるかもわからない状態であったが、大会を視て世界選手権、オリンピックに出場している国々が本格的に、この世界リレーに賭けてきていることが参加選手や大会の記録結果などから感じた。

生活環境

ナッソーの環境は素晴らしく、宿舎になったホテルも海岸沿いにあるリゾートホテルで、雰囲気も申し分なく、選手にとってもリラックスでき、試合に集中できる環境であった。食事、バイキングで食材のバランスがよく、日本選手にも十分に納得できる食事内容であった。気候的にも良く、日中は気温も高く、若干湿度があったが、過ごしやすく、申し分ない環境で試合ができた。大会会場までのアクセスも、問題なくスムーズに運行されていた。

競技会運営

リレー競技のみという本大会の特性から、今までの競技会では考えられない運営であった。例えば、選手入場に関して、100mスタート付近に入場ゲートができ、レーンの遠い順から国ごとに4人が一斉に紹介され入場し、各々スタートポジションに移動して、5分後

にレースが始まった。大会運営および番組編成の効率も非常に良く、レース前の雰囲気徐々に盛り上がるように運営されていた。水泳競技会で行われている選手入場シーンに非常に近いかたちであった。それぞれのレースごとに入場する選手のパフォーマンスなどもあり観客も楽しんでいたようであった。また、各決勝種目においては、各選手と共に出場国の国旗がメインストリートを歩くなどのパフォーマンスもあり、一段と決勝レースを盛り上げていた。レース後もユニフォームのままですぐに表彰があり、レースから表彰までが終了してから、次のレースが始まる流れであった。観ているも時間の使い方がスムーズであった。競技運営もリレーに特化したことで、大きな問題も無く、運営されていた。特に、日本との違いで感じたことは、4×200mリレーがセパレートで行われたことと、4×100mリレー、4×400mリレーでは、決勝進出ができなかった国で、予選タイム上位の8チームのB決勝のレースが行われたことである。記録を残すことでは非常に画期的なことであった。

競技成績

この世界リレーで8位に入賞した国には、2015年北京世界選手権出場権が与えられるシステムになっており、日本チームとしても出場権獲得を目指して、臨んだ大会でもある。それぞれの種目について競技成績を報告する。

男子4×100mリレー 過去のオリンピック、世界選手権で入賞している常連でもあり、今回のメンバー（大瀬戸一馬選手、高瀬慧選手、桐生祥秀選手、飯塚翔太選手）についても大いに期待できるメンバーで臨んだ。予選が3組あり、日本は1組目でイギリス、トリニダードトバゴ、キューバといった強豪とのレースであったが38秒34の3着でゴールし、残りの2レースの結果から、プラスの2番目で決勝進出をした。決勝には、フランス、日本、ドイツ、トリニダードトバゴ、イギリス、ジャマイカ、カナダ、ブラジルが進出した。常連のアメリカが予選でバトンミスをし、決勝に残れなかった波乱があったが、ほぼ昨年および今年のランキング上位国が決勝に残った。決勝レースでは日本は2レーンで追う形になったが、1走大瀬戸選手が予選以上に良いスタートをし、2走高瀬選手にスムーズなバトンパスから、レースの流れに乗って3走桐生選手にバトンが渡り、一気に加速してジャマイカ、イギリスに次ぐ位置でアンカー飯塚選手にバトンパスされた。トリニダードトバゴ、ブラジルが追い上げ、飯塚選手も懸命に逃げたが、4位ブラジルと同タイム（38秒40）で5位に入賞した。目標としていた入賞ができ、北京世界選手権出場の見込みも取れたことは大変素晴らしい。今後も37秒台を狙って取り組んでいきたい。

男子4×200mリレー 4×100mリレー、4×400mリレーに出場できなかった選手（小林雄一選手、江里口匡史選手、高平慎士選手、藤光謙司選手）で臨んだ4×200mリレーは日本ではあまりなじみの無いレースで、以前は全日本中学陸上で行われていた種目である。200mのベストタイムから十分決勝に進出して、上位に入賞できるメンバーであったが、レースがセパレートで行われた為、200mの感覚が違うこともあった。十分バトン練習も行ってきたものの、2走江里口選手から3走高平選手のバトンミスで大きく後れ、アンカー藤光選手が素晴らしい走りでも追いつけず、1分23秒87で全体の9位で決勝進出はできなかった。この種目では日本は十分上位を狙える記録を持っている選手が多くいることから可能であれば積極的に考えていきたい。

男子4×400mリレー 今回は、個人のコンディションなどによりベストメンバーで臨めなかったことは非常に残念であったが、代表になったメンバー（油井快晴選手、金丸祐三選手、石塚祐輔選手、渡邊和也選手）は、非常に頑張ったと感じている。予選は3組2着+記録上位チーム2チームで決勝進出を争い、日本は3組目で石塚-金丸-油井-渡邊のオーダーで臨んだ。地元パハマ、トリニダードトバゴ、キューバ、ベルギーなど実力のある国とのレースで、前半から速いレース展開につきことができず、レースの流れを作れずに3分04秒25の5位で決勝進出はならなかったが、B決勝に進出した。記録への挑戦と意識付けさせ予選のオーダーから油井-金丸-石塚-渡邊に代え、新たな気持ちでB決勝に臨んだ。

1走油井選手が素晴らしい走り、上位での流れを作ることがで

き、2走の金丸選手がトップ集団で走りキープし、3走の石塚選手もベルギーとはほぼ同時に、4走渡邊選手にバトンパスされ、バックストレートで渡邊選手がベルギーを抜いてトップに立ち、そのまま逃げ切れる展開であったが、ラストの直線がかわされ、3分03秒24の2着でゴールした。予選より1秒は短縮できたことと、積極的なレース展開ができたことは評価したい。しかし、ファイナルに残ることを考えると、個々の記録が45秒前半の記録になる必要がある。油井選手をはじめ、若い競技者の躍進に大いに期待したい。

女子4×100mリレー 5月11日のセイコーゴールデングランプリで43秒80の世界選手権参加標準記録を突破し、本大会に出場することができた。今回はエースの福島千里選手が故障等で代表にならなかったが、新たなメンバー（北風沙織選手、土井杏南選手、渡辺真弓選手、市川華菜選手、藤森安奈選手）で世界とどのように戦えるか興味があつた。日本は予選3組目の5レーンでイギリス、フランス、バハマなどの強豪とのレースであった。1走の北風選手が、好スタートを切ったが20m付近で左足に違和感があり、そのままのスピードで2走土井選手に渡したが全体的なスピードの流れについて行けなかった。その後、3走渡辺選手、4走の市川選手とバトンは上手く繋がったが、44秒66の組で最下位に終わってしまった。全体的にも19チーム参加で18番目であったが、実力的にはB決勝には残れる力があつただけに残念である。今後、国際競技会での確実なる成果を上げられるような取り組みが必要であり、個々の記録向上が急務である。**最後に**

今回の第1回世界リレーに選手団を派遣し、この大会の重要性を認識した。特に、来年の開催は5月上旬での開催で、リオデジャネイロ・オリンピックの出場権がかかる重要な大会である。各国の取り組みも今回の世界リレーに参加して、より重点的に強化を図ってくるに違いない。また、今までリレーを重視していなかった国もリレー強化に専念してくることが考えられる。日本も今大会の反省を基に、これから来年に向けてナショナルチームとしての取り組みを重要視し、重要競技会として早くから世界リレーに向けての準備をしていかなければならない。その為にも、今後いろいろな面での検討が急務であることを感じた。

第16回アジアジュニア陸上競技選手権大会報告

大会期間:2014年6月12日~15日 強化副委員長・強化育成部長 山崎 一彦
場 所:台北 (チャイニーズ・タイペイ)

日本選手団役員 (13名)

No.	役職	氏名	所属
1	団長	武藤 顕	日本陸連 理事
2	監督	山崎 一彦	日本陸連 強化委員会副委員長・強化育成部長
3	ヘッドコーチ	麻場 一徳	日本陸連 強化委員会 強化育成部 副部長 (U23統括)
4	コーチ (短距離)	青戸 慎司	日本陸連 強化委員会 強化育成部 委員
5	コーチ (ハードル)	雪下 良治	日本陸連 強化委員会 強化育成部 委員
6	コーチ (長距離)	森政 芳青	日本陸連 強化委員会 強化育成部 委員
7	コーチ (長距離)	十倉みゆき	日本陸連 強化委員会 強化育成部 委員
8	コーチ (投擲)	野口 安忠	日本陸連 強化委員会 強化育成部 委員
9	コーチ (跳躍)	伊藤 信之	日本陸連 強化委員会 強化育成部 委員
10	ドクター	塚原 由佳	日本陸連 医事委員会 委員
11	トレーナー	松尾信之介	日本陸連 医事委員会 トレーナー部 委員
12	トレーナー	宮澤 那緒	日本陸連 医事委員会 トレーナー部 部員
13	渉外	大嶋 康弘	日本陸連 事務局 事業部

金11個、銀5個、銅5個と前回大会金メダル3個 (前々回は4個) と比べ大幅に金メダル数が増加した。またアジアの陸上大国である中国の金メダル数が12個で、通常倍以上の差をつけられてしまうことから非常に良い成績であった。この要因としてあげられるのは以下の通りである。

1. 好成绩の要因

① 選考方針を大きく変えたこと

選考要項に則り、アジア規模の記録は最初の選考時には考慮せず、世界ジュニア選手権の派遣設定記録を2014年に突破した競技者から優先的に選出した。このことで、今年に入ってから高い記録水準の選手を選出することが出来たため、金メダルが獲得できるレベルの選手を派遣することが出来た。また、従来は男女2種目のリレーを派遣していたが、個の実力を考えるとアジア下位入賞しか出来ない選手を派遣していた。このため、今回は戦略的に世界ジュニア選手権に専念する実力者はアジアジュニア選手権を回避したため、個の力という観点から記録の低かった男女4×400mリレーの派遣は見送った。このことで、従来派遣の少なかったフィールド種目など多種目に渡って派遣することが出来た。トラック種目はもちろんフィールド種目においても積極的に派遣できたことでメダル獲得数を伸ばすことや、なかなか世界大会となると派遣できない種目に関して派遣することが出来、金メダルは獲得できなかったがメダル獲得および自己記録更新をする選手が多かった。特にアジアレベルで苦戦している種目に関して、選手たちが自己新を出して終了できたことは、今後の自身や冷静に世界やアジアとの差を感じながら競技を続けられる材料になったことであろう。

② 台北の競技環境が好条件であったこと

気温と湿度は日本よりも若干高い気候であったため、長距離種目の記録は望めなかったが、その他の種目では総じて良かった。宿舎は競技場まで30分とまずまずの距離であったが、予定のバスが満席になってしまい、次の30分後のバスまで待たなければならぬ場面もあったが、海外では許容範囲であった。また食事などで体調を崩す選手もいなかったことから、ジュニアの試合としては導入的に受け入れられる環境であった。フライト時間などの移動時間や時差などの対策を練らなくて良かったため、現地入りも通常よりも1日遅らせた2日前現地入りでも十分に対応できた。

③ 2020年へ向けた選手の動機付けが感じられたこと

選出された選手たちは2020年へ向けて、具体的ではないがオリンピック選手になりたいといった動機付けの高い選手が見受けられた。2020年でメダルの期待がかかる男子4×100mリレーのメンバーたちは、アジアジュニア選手権の記録としては好記録であった39秒49台であっても、一時的な喜びは持ちつつも、次の世界ジュニア選手権や代表になるための話をしていくことが印象的であった。その他にも東京まで頑張りたいという声をたくさん聞くことが出来た。全ての選手の動機付けが高いという訳ではなかったが、今後は具体的な日本代表への創造的動機付けが出来そうな選手も多かった。

④ コーチングスタッフおよびサポートスタッフが充実していた

コーチングスタッフも海外慣れた方々ばかりで、現時点でのコーチングだけでなく、将来を見越したコーチングとマネジメントに徹してくれた。また前述の通り、2020年のための動機付けとともに世界と戦うための海外選手との差や今後の課題など長期的な視野でアドバイスしてくれた。また、初派遣であった塚原ドクターも精力的に朝から晩まで対応してくれたおかげで、出国前に選手自身が持ってきた風邪や傷害以外に大きな問題はなかった。さらに滞在期間の大きなケガなどもなくトレーナーが対処してくれたことが好成绩に結びついた。

2. 課題と問題点

まずは、ドーピング検査についての手順が選手の知識にないことが挙げられる。アンチ・ドーピングの知識は日体協、各県の研修会および強化育成部などのJADA講習会などを積極的に行っていることから浸透している。しかしながら、競技会検査などの選手の義務と権利について認知していないことや、競技会後にどのような手順で検査が進められていくかわからない選手が続出したことで、ドクターにかなり負担をかけた。ラウンド制など世界ジュニア選手権やその他の国際大会などでは、これらを冷静に対処できないと、競技会そのものの成績に支障が出る恐れがある。今後は出来る限り該当選手には対処していきたい。

金メダル総数では、中国にわずか1個差まで近寄ったことは大きな功績であるが、中国は世界ジュニア選手権に照準を合わせており、世界ジュニア選手権に出場する選手の派遣は、4人程度であった。この4人は主に跳躍選手であることが予想されるが、男子走幅跳、三段跳、棒高跳においてはメダル圏内の選手を派遣しており、非常にレベルの高い内容であった。これらの状況を日本は真摯にとらえていかなければならないだろう。

食事に関して、ホテルの食事は通常のアジアジュニア選手権の中でも良い内容であった。しかしながら、日本の選手たちはすぐに電子レンジを使いたがり持参したレトルト食品を使用したがる節があった。初海外では情状酌量の余地はあるが、少しずつ食事および生活の適応能力を高めていくことも必要であると感じた。2020年の東京を考えると、自国開催であるから環境が良いということは限

らない。食事の味は問題ではないかもしれないが、自国開催での大会期間はむしろ自国が自国でなくなる可能性が高い。オリンピックはオリンピックであり、自国の裁量で大会運営がなされる訳ではない。それらを想定した厳しい内容の競技会経験は必要である。昨今の日本では、記録という客観的材料のみを重視してしまう状況をつくっている。記録のみでは実力は測れない評価レベルに達している。今後は海外で出した記録や、国際大会グレードによって出した記録や順位の評価などを十分に考慮していかなければならないだろう。

東京オリンピック強化は、強化育成部のカテゴリーでは既に始まっていると言ってよい。U19の該当指導者と競技者は、体力や技術向上に重点を置くだけでなく、国際的な視野を持ち強化育成に当たっていかねばならないだろう。

第16回アジアジュニア陸上競技選手権大会 リザルト

男子	種目	氏名	所属	自己ベスト	日付	予選	日付	準決勝	日付	決勝
1	100m	森 雅治	大東文化大学	10秒45	6/12	10.46 (2/h2) +2.0m/s Q 決勝進出			6/13	10.60 +0.3m/s (5)
2	100m	川上 拓也	中央大学	10秒40	6/12	10.19 (1/h3) +3.0m/s Q 決勝進出			6/13	10.47 +0.3m/s金メダル
3	200m	日吉 克実	中央大学	21秒02	6/14	21.11 (1/h2) +1.9m/s Q 決勝進出			6/15	21.05 +1.0m/s銅メダル
4	200m	徳山 黎	早稲田大学	20秒93	6/14	21.11 (2/h3) +1.0m/s Q 決勝進出			6/15	21.13 +1.0m/s
5	1500m	秦 将吾	山梨学院大学	3分46秒14					6/13	4:14.63 (10)
6	5000m	光延 誠	早稲田大学	14分00秒61					6/15	14:38.99 銀メダル
7	10000m	服部 弾馬	東洋大学	28分55秒31					6/13	31:10.60 金メダル
8	110mH	鍵本 真啓	立命館大学	14秒09	6/13	13.90 (2/h2) +0.7m/s Q 決勝進出 PB			6/14	13.51 +0.5m/s 銀メダル NCR/PB
9	110mH	金井 大旺	法政大学	14秒10	6/13	13.73 (1/h1) -1.7m/s Q 決勝進出 PB			6/14	13.33 +0.5m/s 金メダル NCR/NJR/PB
10	400mH	坂梨 雄亮	中央大学	51秒02	6/14	51.87 (2/h1) Q 決勝進出			6/15	50.76 銅メダル PB
11	400mH	坂本 景	東京学芸大学	51秒20	6/14	52.97 (3/h2) Q 決勝進出			6/15	52.51 (6)
12	3000mSC	村島 匠	順天堂大学	8分55秒68					6/14	9:03.35 銀メダル
13	10000mW	及川 文隆	東洋大学	41分36 (10kmW)					6/13	44:08.25 金メダル
14	10000mW	滝沢 大賀	春日部東高校	41分45 (10kmW)					6/13	47:50.30 (4)
15	棒高跳	高須 莉喜	希望ヶ丘高校	5m10					6/12	4m85 (5)
16	走幅跳	城山正太郎	東海大学北海道	7m63					6/13	7m70 銅メダル +0.7m/s PB
17	走幅跳	小田 大樹	日本大学	7m49					6/13	7m54 (4) +0.6m/s PB
18	ハンマー投 (6.0kg)	金原 裕太	京都産業大学	59m55 (7.26kg)					6/12	64m63 (4) PB
19	4×100m リレー	決勝期日 6月14日	出場オーダー 川上 拓也・森 雅治・日吉 克実・徳山 黎				順位	金メダル	記録	39.49

女子	種目	氏名	所属	自己ベスト	日付	予選	日付	準決勝	日付	決勝
1	100m	高森 真帆	青山学院大学	11秒75	6/12	12.17 (1/h3) -1.0m/s Q 準決勝進出	6/12	11.98 (2/h2) 1.0m/s Q準決勝進出	6/13	11.90 +3.0m/s (6)
2	100m	松本沙耶子	都留文科大学	11秒84	6/12	12.16 (1/h1) -0.8m/s Q 準決勝進出	6/12	12.14 (4/h1) 0.4m/s q 準決勝進出	6/13	11.91 +3.0m/s (7)
3	400m	杉浦はる香	青山学院大学	52秒52	6/12	56.84 (4/h2) q 決勝進出			6/13	56.15 (7)
4	800m	平野 綾子	筑波大学	2分05秒16	6/14	2.12.60 (1/h1) Q 決勝進出			6/14	2:06.75 金メダル
5	1500m	中村 祐希	宮崎銀行	4分21秒68					6/13	4:28.75 銀メダル
6	3000m	関根 花観	日本郵政グループ	9分06秒97					6/15	9.17.55 銀メダル
7	5000m	出水田真紀	立教大学	15分38秒22					6/12	16:18.35 金メダル
8	5000m	筒井 咲帆	ヤマダ電機	15分46秒44					6/12	16:35.79 (4)
9	100mH	福部 真子	日本体育大学	13秒57	6/13	14.13 (1/h2) -0.7m/s Q 決勝進出			6/14	13.98 -0.2m/s 金メダル
10	400mH	伊藤 明子	筑波大学	59秒14					6/15	58.80 金メダル PB
11	10000mW	河添 香織	立命館大学	47分34 (10kmW)					6/12	50:38.05 金メダル
12	棒高跳	水島 恵	清水東高校	3m80					6/14	3m80 銅メダル =PB
13	円盤投 (1.0kg)	藤森 夏美	順天堂大学	47m22 (1.0kg)					6/15	46m16 銅メダル
14	砲丸投 (4.0kg)	太田 垂矢	福岡大学	14m21 (4.0kg)					6/12	14m55 (5) PB
15	やり投 (600g)	當間 汐織	九州共立大学	54m43 (600g)					6/13	55m75 金メダル PB
16	4×100m リレー	決勝期日 6月14日	出場オーダー 福部 真子・高森 真帆・杉浦 はる香・松本 沙耶子				順位	4位	記録	46.42

メダル合計：金 11、銀 5、銅 5

2014年度全国医務部長会議報告

理事・医事委員長 山澤 文裕

2014年度全国医務部長会議を6月1日に味の素ナショナルトレーニングセンター会議室にて開催した。本会議は、全国の陸協における医務部の設置、医務レベルの向上を目的とし、2009年より開始し、今回で6回目を迎えた。都道府県陸協医務部長など31名、日本陸連医事委員22名、日本陸連事務局2名が参加した。会議前のアンケート調査で、47陸協のうち前年同様39陸協に医務部があるが、医師が部長を務めているのは31陸協と1つ減り、「すべての陸協に審判部が存在するのと同じ様に医事部も存在する」状態から後退してしまった。日本選手権、国体、インターハイなどを契機として全陸協に医務部が設置されるよう、また2020年東京オリンピック・パラリンピックに向けてメディカルサポートが全国で展開できるよう関係者に働きかけることとする。

1. 2013年度医事委員会報告

新規事業としてマラソンメディスンセミナーを開催し、競技者生物学的パスポート（ABP）の一環としてマラソンでの競技会前血液検査を開始し、113検体が採取された。

2. 日本代表チームドクター報告

モスクワ世界選手権には内科・整形外科の医師2名体制（鳥居俊委員、真鍋知宏委員）で臨み、分業は有効であった。WBGT 31℃と暑熱環境で、男女マラソンで1名ずつ棄権した。アジア選手権（インド・ブネー、桜庭景植委員）では、衛生面に厳重な注意を払ったが、56人中31人に下痢などの感染症が発症した。世界ユース選手権（ウクライナ・ドネツク、前澤克彦委員）では、衛生環境は良く感染による下痢などの問題はなかった。途上国での大会の際は衛生環境への注意が重要であった。シーズンを通して日本代表選手へ継続的なサポートを行う体制が機能しているが、大会直前まで地域でのフォローを受けられるような連携が必要で、全国の医務部長に協力を依頼した。

3. メディカルサポート

昨年9月に開催したマラソンメディスンセミナー2013で、陸連が行っている安全安心のための取り組みに関する情報と各マラソンの状況に応じてテロ対策を講じていく必要があることが強調された。全国女子駅伝で、高校生が疲労骨折による出場取りやめ事例が多く、一方全国男子駅伝では疲労骨折よりも靭帯炎など炎症の方が多いとされた。疲労骨折、無月経、骨粗鬆症を含めて、今後はジュニア競技者の指導者への教育啓発が必要であることが強調された。アシートのメンタルサポートとして、メンタルトレーナー（競技力向上：スポーツメンタルトレーニング指導士）、スポーツカウンセリング（健康維持：臨床心理士）、スポーツ精神医学（不調からの回復：精神科医・スポーツドクター）の3種の連携した分業が必要で、本人がづらい状態では、医師による治療が望ましいとされた。翼状片、白内障など眼科的紫外線障害予防の情報提供を日本陸連医事委員会として検討していることが報告された。

4. ドーピング防止および違法・脱法薬物

禁止物質やTUE申請に関して日本陸連HPやJADA HP

(Global DRO)の活用を勧めた。TUE申請に関して日本陸連あてに参加する競技会の35日前に送ってもらうことにしている仕組みを確認した。2014年9月1日よりEPO活性化作用があるとされるキシノンガスとアルゴンガスが禁止表に追加されるが、SGLT2阻害薬（糖尿病の薬）は利尿作用を含むが禁止物質ではないと報告された。2015年1月1日より世界アンチ・ドーピング規程が改訂され、資格停止は原則として4年間に変更される。ドーピングと並び、競技の価値を脅かすものとして、違法薬物への注意は引き続き必要である。一般ランナーの間で、パフォーマンス向上を目的にカフェインを摂取する傾向があるが、日本陸連として注意喚起が必要であること、マラソン前に痛み対策として消炎鎮痛剤を使うことは、薬物の不適正使用であり、日本陸連としては勧められないこと、を確認した。

5. スポーツ栄養情報

女性選手の三主徴（無月経・骨粗鬆症・摂食行動の異常）は、摂食行動の異常から、「LEA: low energy availability」となった。三主徴以外にも免疫低下、胃腸障害、精神障害などが併発しやすい。栄養学的コンディショニングの基本として体重測定的重要性が指摘された。

6. ジュニア期におけるスポーツ障害の予防

インターハイ選手（約3,000人）のスポーツ障害に関する調査をアンケート形式で行い、安全なトレーニング指標、トレーニングにおけるガイドラインの策定を目標としていることが報告された。

7. 都道府県陸協医務部活動

長崎陸上競技協会（古賀英俊先生）、富山陸上競技協会（北川鉄人先生）、奈良陸上競技協会（笠次良爾先生）から、それぞれの陸協の医務活動、大会準備状況が報告された。古賀先生より、長崎国体の競技場が完成し、スタジアム設計に携わる段階から強く要望して、救護室はトラックに面したフィニッシュライン付近に設置され、製氷機も用意できた。救急車での搬送もスムーズである。アンチ・ドーピングに関する取り組みとして、冊子の配布、地元薬剤師会の協力、ドーピングホットラインの開設を行うなど、積極的に準備が進んでいる。

北川先生は、富山陸上競技協会のドクターとなって40年になるが、1999年の国体を契機として徐々に医務部に対する理解が得られるようになったと話された。奈良陸協に医務部は設置されていないが、笠次先生はマラソンやトライアスロンにかかわっているため陸協より派遣された。広範囲のエリアで大会が行われる場合、安全教育が重要で効果的と話された。フロアより、国体の円盤投で、報道陣に円盤が当たり救急搬送をした事例があり、警察が選手から事情聴取をしようとしたが、選手の精神的ストレスを考えて医事が阻止したことがあり、さまざまなことが起こる可能性があることが伝えられた。

8. 総括

全国医務部長会議は充実した内容であるが、議題や討議内容などマンネリ化を避けなければならない。新基軸を考える時期に来ていると思われる。

大会観戦ガイド

今年もジュニア・ユース世代の夏が始まります。目指せオリンピック！若きアスリートたちの活躍を、ぜひ応援して下さい！

平成26年度 全国高等学校総合体育大会陸上競技大会 秩父宮賜杯 第67回全国高等学校陸上競技対校選手権大会

▼競技期日：7月30日（水）～8月3日（日）

総合開会式 7月28日（月）

陸上開始式 7月30日（水）

▼会場：山梨中銀スタジアム

山梨県甲府市小瀬町840

▼アクセス：

JR中央本線「甲府駅」南口〈バス〉山梨交通バス8番のりば、「伊勢町経由小瀬スポーツ公園」行き「小瀬スポーツ公園正門」・「小瀬スポーツ公園」下車徒歩すぐ。

▼種目：

〈男子〉 21種目

100m、200m、400m、800m、1500m、5000m、110mハードル、400mハードル、3000m障害物、5000m競歩、4×100mリレー、4×400mリレー、走高跳、棒高跳、走幅跳、三段跳、砲丸投、円盤投、ハンマー投、やり投、八種競技

〈女子〉 17種目

100m、200m、400m、800m、1500m、3000m、100mハードル、400mハードル、5000m競歩、4×100mリレー、4×400mリレー、走高跳、走幅跳、砲丸投、円盤投、やり投、七種競技

▼放送予定：

7月31日（木）15：30～16：35 NHK Eテレ

8月1日（金）15：30～16：35 NHK Eテレ

▼問い合わせ先：

平成26年度全国高等学校総合体育大会

甲府市実行委員会事務局 陸上競技担当

TEL：055-223-7330 FAX：055-223-7331

E-mail：riku2014@city.kofu.yamanashi.jp

大会ホームページ

<http://www.zen-koutairen.com/2014soutai/>

平成26年度 第49回全国高等学校 定時制通信制陸上競技大会

▼期日：8月8日（金）～10日（日）

開会式 8月8日（金） 9：00～

▼会場：駒沢オリンピック公園総合運動場陸上競技場

東京都世田谷区駒沢公園1-1

▼アクセス：

東急田園都市線「駒沢大学駅」下車、「公園口」の出口を出て、自由通りを南へ直進、「駒沢公園東口」から入場、陸上競技場（サービスセンター）まで、約15分。

▼種目：

〈男子〉 15種目

100m、200m、400m、800m、1500m、5000m、400mハードル、3000m障害物、4×100mリレー、4×400mリレー、走高跳、走幅跳、三段跳、砲丸投、円盤投

〈女子〉 11種目

100m、200m、400m、800m、3000m、100mハードル、4×100mリレー、走高跳、走幅跳、砲丸投、円盤投

▼問い合わせ先：

全国高等学校定時制通信制陸上競技大会事務局

（都立浅草高等学校内）

TEL：070-6458-2364



平成25年度インターハイ・男子110mハードル決勝



平成25年度全国定通制陸上・男子4×400mリレー決勝

平成26度全国中学校体育大会 第41回全日本中学校陸上競技選手権大会

- ▼期日：8月17日（日）～20日（水）
- 開会式 8月17日（日） 14：30～15：20
競技会 8月18日（月） 09：00～17：45
8月19日（火） 09：00～17：30
8月20日（水） 09：00～16：00
閉会式 8月20日（水） 16：30～17：00

- ▼会場：香川県立丸亀競技場
香川県丸亀市金倉町830

▼アクセス：

JR丸亀駅から、コミュニティバス「丸亀西線」で、城西高校方面は約15分、塩屋橋方面は約30分。「丸亀スタジアム」下車徒歩1分。琴参バス「琴平線」で約11分。「丸亀スポーツセンター前」下車徒歩10分。

▼種目：

〈男子〉 13種目
100m、200m、400m、800m、1500m、3000m、110mハードル、4×100mリレー、走高跳、棒高跳、走幅跳、砲丸投（5.000kg）、四種競技（110mハードル、砲丸投（4.000kg）、走高跳、400m）

〈女子〉 10種目
100m、200m、800m、1500m、100mハードル、4×100mリレー、走高跳、走幅跳、砲丸投（2.721kg）、四種競技（100mハードル、走高跳、砲丸投（2.721kg）、200m）

▼放映予定：

8月21日（木）14：20～16：00 NHK Eテレ

▼問い合わせ先：

（大会開催前）
平成26年度全国中学校体育大会
第41回全日本中学校陸上競技選手権大会
香川県実行委員会事務局（高松市立玉藻中学校内）
TEL：087-802-1930
FAX：087-802-1939



平成25年度全日本中学校陸上・女子4×100mリレー決勝

（大会開催中）8月18日（月）～21日（木）

[昼間] 香川県立丸亀競技場

TEL：0877-21-5800

[夜間] オークラホテル丸亀

TEL：0877-23-2222

E-mail：rikujyou26@cronos.ocn.ne.jp

大会ホームページ

<http://www.jaaf.info/zencyu/2014kagawa>

第49回全国高等専門学校体育大会 陸上競技

- ▼期日：8月20日（水）～21日（木）

- ▼会場：宿毛市総合運動公園陸上競技場
高知県宿毛市山奈町芳奈4024番地

▼アクセス：

土佐くろしお鉄道宿毛線
「平田駅」から高知西南交通バス [宿毛方面行]：約4分→「寺山口」バス停徒歩約20分
「中村駅」から高知西南交通バス [宿毛方面行]：約40分→「寺山口」バス停徒歩約20分

▼種目：

〈男子〉 15種目
100m、200m、400m、800m、1500m、5000m、110mハードル、4×100mリレー、4×400mリレー、走高跳、走幅跳、三段跳、砲丸投（6kg）、円盤投（1.75kg）、やり投

〈女子〉 4種目

100m、800m、走幅跳、砲丸投（4kg）

〈オープン種目〉 7種目

男子：200m、1500m 女子：200m、100mハードル、4×100mリレー、走高跳、円盤投

▼問い合わせ先：

第49回全国高等専門学校体育大会陸上競技事務局
高知工業高等専門学校学生課内
TEL：088-864-5625



平成25年度全国高専陸上・男子200m決勝



JAAF TOCHIGI 一般財団法人栃木陸上競技協会

〒321-0152 宇都宮市西川田5-4-18
 コーポランド西川田駅前ビル103
 TEL.028-612-8594 FAX.028-612-8549
<http://www.jaaftochigi.jp/>

平成26年度の前半の本協会の事業もほぼ終了しました。荒雨の大会で選手の雨対策や竜巻対策では苦慮いたしました。また、ある大会では猛暑の日で特に長距離レースでは熱射病でレース中やフェニッシュ後に倒れ、救急車を搬入する事態が度々あり、それぞれ厳しい対応が求められました。でも、選手・役員には大きな事故なく進めることができました。

天候による運営面の準備の大切さを改めて痛感させられました。後半の大会開催には十分配慮して運営に当たりたいと思っております。

10月5日には真岡市、井頭公園にて「ねんりんピック栃木2014」のマラソン大会が開催されます。全国から60歳以上の選手を迎えて、10km、5km、3kmのレースを実施します。また、10月24～26日には第29回国公立24大学対抗陸上競技大会（宇都宮市）、11月22日には関東高校駅伝大会（佐野市）が開催されます。本協会も全面的にお手伝いしていきます。

本県の2巡目の国体開催が8年後に内々定し、それに向かって新陸上競技場が設置される予定となりました。県と設計の段階から参加でき、使い勝手の良い競技場を期待しています。

本協会あげて後半の事業運営に取り組んで行きたいと思えます。

JAAF SAITAMA 一般財団法人埼玉陸上競技協会

〒362-0034 上尾市愛宕3-28-30
 埼玉県宮上尾運動公園陸上競技場気付
 TEL.048-771-4248 FAX.048-772-4566
<http://sairiku.net/>

4月のシーズン開幕から、三ヶ月余りが過ぎようとしています。県内競技会では、5月16、17日に、熊谷スポーツ文化公園陸上競技場において、関東インターカレッジを開催しました。2日間共に多少風が強かったですが、1部校男子100mでは、東洋大学の桐生祥秀選手が10⁰/05の自己セカンドベストタイムで優勝し競技場が大変盛り上がりしました。

また、5月24、25日にバハマで開催された、第1回世界リレー選手権には、本県出身で大東文化大学1年の土井杏南選手（埼玉栄高校卒）が女子4×100mリレーに、東洋大学1年の桐生選手（本年より埼玉登録）が男子4×100mリレーに出場しました。

6月6～8日に開催された日本選手権の結果、9月のアジア競技大会に本県関係者で、男子マラソンに川内優輝選手（埼玉県庁）、男子短距離に桐生選手（東洋大学）、女子短距離に土井選手（大東文化大学）、男子やり投に新井涼平選手（皆野高校卒）、男子短距離に藤光謙司選手（市立浦和高校卒）、男子競歩に谷井孝行選手、山崎勇喜選手（共に自衛隊体育学校）の7名が選出され、活躍が期待されます。

今後の大きな県内競技会ですが、9月5～7日に日本インターカレッジを熊谷スポーツ文化公園陸上競技場で開催いたします。埼玉陸協一丸となり取り組んでまいりますので、ご指導、ご協力をお願いいたします。（文責：総務部 木村一也）

JAAF GUNMA 一般財団法人群馬陸上競技協会

〒370-0871 高崎市上豊岡町145-5 今井酒店気付
 TEL.027-345-7790 FAX.027-345-7791
<http://gold.jaic.org/gunma/index.html>

2014年シーズンがスタートし、いくつかのルール改正がありました。4月19日（土）の審判講習会において、高橋JTOより綿密な伝達がありました。各部署の審判員の理解と協力により、ほぼ問題なくシーズンをスタートすることができました。

6月6日から福島市で行われた日本選手権で本県関係選手が大活躍しました。

男子200m	原 翔太（上武大学）	1位	20秒62 (+0.9)
男子砲丸投	畑瀬 聡（群馬総合ガードシステム）	1位	18m50
男子円盤投	堤 雄司（群馬総合ガードシステム）	1位	58m44
女子10000m	西原加純（ヤマダ電機）	1位	32分37秒23
女子棒高跳	濱名 愛（しきしま倶楽部）	1位	4m09
男子走幅跳	菅井洋平（ミズノ）	2位	7m83 (+0.4)
女子10000m	竹地志帆（ヤマダ電機）	2位	32分37秒69
男子ハンマー投	野口裕史（群馬総合ガードシステム）	5位	64m56
女子5000m	森 唯也（ヤマダ電機）	5位	15分40秒37
男子3000mSC	塩尻和也（伊勢崎清明高）	7位	8分48秒32
男子走高跳	高山 豊（しきしま倶楽部）	7位	2m10
男子棒高跳	田中 充（群馬TF荒牧）	8位	5m21

※この結果、男子短距離で原翔太選手と女子長距離で西原加純選手の2名が、秋に行われる第17回アジア競技大会（2014／仁川）へ派遣されることになりました。

JAAF CHIBA 一般財団法人千葉陸上競技協会

〒263-0011 千葉市稲毛区天台町323
 千葉県総合スポーツセンター 国際千葉駅伝事務局内
 TEL.043-252-7311 FAX.043-252-7314
<http://www.jaaf-chiba.jp/>

2014年3月25日付けで登記を完了し、下記の役員のもと一般財団法人として新たなスタートをしました。

会 長：大岩哲夫（再任）
 副 会 長：藤原生通（再任）、地陸司（再任）、長谷川良介（再任）
 専務理事：高木義雄（再任）

5月11日のセイコーゴールデングラブル陸上で、走高跳の戸邊直人選手（千葉陸協）が2m31を跳び、日本記録にあと2cmと迫っています。棒高跳の澤野大地選手（富士通）も5m61と好調でした。関東学生選手権大会では、800mで大森郁香選手（日本大学）が自己記録を大幅に更新し2分03秒96（日本歴代10位）で優勝しました。さらなる活躍を期待します。

小学生登録制度を開始しました。全国小学生交流大会予選会、キッズ陸上、全国クロカンリレー予選会は、毎年参加者が増えており、各チームの活動も活発になっています。登録制度を導入することにより、陸協からも有効な情報を発信できると考えています。

10月19日に「ちばアクアラインマラソン2014」を開催します。マラソン13,000人・ハーフ4,000人の募集となり二本立ての運営ですが、昨年の反省を踏まえ、給水給食・救護・輸送面の運営体制をより強化し、安全且つ円滑な大会運営を目指しています。

11月24日に「2014国際千葉駅伝」を開催します。出場選手が十分に力を発揮し魅力あふれるレースを展開できるように大会運営に励みます。是非、会場や沿道、TV観戦等でご声援をお願いします。



陸協NEWS

JAAF TOKYO

公益財団法人東京陸上競技協会

〒160-0021 新宿区歌舞伎町1-28-3 武井ビル4F
TEL.03-3203-6123 FAX.03-5292-0196
<http://www.toriku.or.jp/>

2014年5月31日をもって東京オリンピック以来の50年の歴史の“火”は消えた。2020年のオリンピック・パラリンピックの主会場としての新国立競技場の建設の準備に入りました。開催地の東京陸協としては、最高の大会になるよう今までの経験と最新の技術を駆使して新しい競技会運営の準備を進めていきたいと思ひます。

4月に「SAYONARA国立」の行事の一環とし第77回東京陸上競技選手権大会を開催し、900人近くの競技者が参加、長崎国体に向けて強化陣の目が光る中で東京チャンピオンの戦いを展開しました。また、国立競技場最後の陸上競技大会として5月11日にはセイコーゴールデングランプリを開催し、2万人の観衆の中で日本新記録の誕生の瞬間を見る幸運にも出会いました。

公益財団法人としての一期目が終了し、2期目に入り、より公益法人らしい事業運営をさらに進めてまいります。エリート競技者はもちろんのこと、今後も、小学生から高齢者まで幅広く、健全者とともに障害者の人たちが陸上競技を通して健康で、明るく楽しい生活づくりに力を出せるような大会を開催して2020年の東京大会で国民が一つになるよう努力したいと思ひます。

(文責：常務理事 有澤政雄)

JAAF YAMANASHI

一般財団法人山梨陸上競技協会

〒400-0024 甲府市北口2-14-14 山梨文化会館東館内
TEL.055-251-4581 FAX.055-251-4581
<http://yamanashitf.web.fc2.com/>

「君の汗 輝く一滴 勝利の雫」のスローガンのもと、「煌めく青春 南関東総体2014」第67回全国高等学校陸上競技対校選手権大会が、世界文化遺産「富士山」の地、山梨の小瀬陸上競技場で7月30日より8月3日までの5日間開催されます。激しい地区大会を勝ち抜いた若きアスリート、監督・役員を心より歓迎いたします。

我々山梨も20名の本大会参加を目標に小侯強化委員長を中心に取り組んできましたが、南関東地区予選の壁は厚く、高橋将平選手、水越海選手、雨宮巧選手、栄野比ホセ選手、青沼李軌選手、山下黎選手、山田美衣選手、畠山実弓選手、剣持クリア選手、近藤祐未選手の10名が出場権を得ることが出来ました。この精鋭10名は自県で出場できる自信と誇りを胸に若い力を発揮し堂々と競技してくれることを願っています。

競技運営面では昨年関東選手権大会を第1回目のインターハイのリハーサル大会として、また、本年6月県選手権大会を2回目のリハーサル大会として日本陸連より鈴木先生、鎌倉先生、安池先生を派遣していただき、選手が主役の大会運営、マナーの良い審判運営、審判部署の連携強化等、審判知識と技術の向上に力を入れてきました。大会本番ではおもてなしの心で真心ある大会を目指した競技運営を図り「山梨はひとつ」の合い言葉の下、力を合わせ、日本一の競技運営をしていきたいと思ひます。

(文責：専務理事 保坂一仁)

JAAF KANAGAWA

一般財団法人神奈川陸上競技協会

〒231-0012 横浜市中区相生町1-18 光南ビル5F-B
TEL.045-210-9660 FAX.045-210-9667
<http://www.kanagawariku.org/>

神奈川では、各専門委員会がそれぞれの負担を担って活動しています。

競技場管理委員会は、競技会がスムーズに運営できるよう施設の整備状況を確認、点検し、施設管理者に整備内容を指導、助言いたします。また、大会ごとに作成した手引書により競技の進行に合わせた用器具類の配置、撤収、競技に使用する用具の検査、投てき競技の区画ラインの角度の検査を行っております。11月開催の横浜国際女子マラソンでは、コース管理部を設け、コース計測、kmポイント・給水ポイント確認、マーキング等の事前準備を行い大会に備えております。

神奈川には、ジュニアオリンピック等の全国規模の大会を開催している日産スタジアム、川崎市等々力(改修工事中)の2つの第1種競技場があり、第3種、第4種の競技場を含めた競技場の検定の際には、有資格者の検定員による検定を行い、公認競技場としての認定を行っております。2年ごとに作成しております「神奈川の陸上競技場」ガイドブックには、競技場の図面とともにトラックのレーン数、跳躍、投てき競技用の設備の内容等を網羅し、競技場までの案内図や競技場の写真を掲載した内容で、競技会に活用しております。また、各加入団体等へ配布し、競技会開催に活用していただくとともに、設備充実の際には指導、助言をいたします。

神奈川陸上競技協会は、一般財団法人として出発して間もないですが、神奈川県陸上競技の普及、振興、競技力の向上を目指しており、神奈川のスポーツ文化の進展に寄与していきたいと考えております。

(文責：競技場管理委員長 鍵和田実)

JAAF NIIGATA

一般財団法人新潟陸上競技協会

〒950-0933 新潟市中央区清五郎67-12
デンカビッグスワンスタジアム内
TEL.025-257-7636 FAX.025-257-7691
<http://www.nrkkt.net/>

6月に福島県で開催されました第98回日本陸上競技選手権大会において、新潟県関係選手は400mHの久保倉里美選手(新潟アルビレックスRC)の大会8連覇や5000mの森川千明選手(スタート)の3位入賞など、女子選手を中心とした活躍を見ることができた大会となりました。また、福島陸上競技協会の皆様にはお忙しい中、本県の視察員を多数受け入れていただきました。この場をおかりしてお礼申し上げます。ありがとうございます。第98回大会の成功を肌で感じ、来年本県で開催いたします第99回大会でも選手の皆様をベストパフォーマンスを発揮できますよう、また、来県される皆様が気持ちよく過ごせまようように準備を進めてまいります。今後とも陸連の皆様をはじめ、多くの皆様からご指導をいただきますよう、お願い申し上げます。

さて、新潟陸上競技協会の最大の競技会である新潟県陸上競技選手権大会が7月11日(金)から13日(日)に開催されます。今年は、新潟アルビレックスRCを中心に若手選手の活躍が期待されています。長崎国体にもついで、日本選手権入賞者とともに強化を図っていきたくて考えております。

事務局からのお知らせ

◆◆日本陸上競技連盟ウェブサイトでは、各種情報を公開しています!◆◆



アドレス <http://www.jaaf.or.jp>

「陸上ファンの方へ」の頁では、観戦に役立つ大会情報や選手名鑑、記録等。「競技者・審判・委員会の方へ」の頁では、競技会に参加するための資格等の情報、ルールブック・ハンドブック情報、登録の仕方等。「日本陸連について」の頁では、団体情報、委員会情報、出版物の紹介をしています。

◆◆陸上競技ルールブック2014年度版を4月より全国の書店、ネット書店で販売開始しました。◆◆

陸上競技関係者や愛好家のための2014年度版ルールブックの発売を開始しました。

修改正のあった国際及び日本国内陸上競技ルールを反映し、すべてのルールのほか競技場の仕様、全国の公認陸上競技場一覧などを掲載しているルールブック。

お近くの書店にない場合は、電話またはホームページからご購入いただけます。

お電話でのご注文の場合：0120-911-410
(ベースボール・マガジン社 受注センター)

受付時間：月～金 10:00～12:00、13:00～16:00
(祝祭日を除く)

ホームページからご注文の場合：
ベースボール・マガジン社のウェブサイトへ。
<http://bookcart.sportsclick.jp>

競技規則を正しく把握して、審判技術の理解を深め円滑な競技会運営を
実行するために審判員必携のハンドブック、陸上競技審判ハンドブック
2013-2014年度版は昨年4月から変わらず発売中です。



陸連時報編集委員

◇編集委員

- 横川 浩 (陸連会長)
- 三宅 勝次 (陸連副会長)
- 友永 義治 (陸連副会長)
- 尾縣 貢 (陸連専務理事)
- 原田 康弘 (陸連強化委員長)
- 風間 明 (陸連事務局長)
- 高橋 克実 (陸上競技マガジン編集長)

◇時報編集室責任者

- 森 泰夫
- ◇時報編集担当
- 繁田 進
- 石塚 浩
- 木越 清信
- 宮田 宏
- 本田香代子
- 森谷 真咲

陸連時報編集室

〒163-0717
東京都新宿区西新宿2-7-1
小田急第一生命ビル17階
公益財団法人日本陸上競技連盟 内
TEL 03-5321-6580
FAX 03-5321-6591
ウェブサイト <http://www.jaaf.or.jp/>
公式動画サイト <http://japanathletics.tv/>